

圖 情 畫 獻

2007年度

講 義 計 画

桃山学院大学

画

十

集

集

科 目 名			
経営学特講－CSRと経営革新（Ⅰ）			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	谷 口 照 三

【講義概要・学習目標】

今日、再び、世界で「企業の社会的責任」がクローズアップされている。「企業の社会的責任」は英語では Corporate Social Responsibility である。今日では、「企業の社会的責任」を CSR と表現することが一般的となった。この問題が世界的に話題となったのは、1960年代の後半から1970年代の初期にかけてであり、それは主として公害問題が契機となった。その後、1970年代の中頃から1980年代に「企業の文化活動」や「フィランソピィー」（いずれも企業の社会への寄付や奉仕活動による社会貢献活動）が、1990年から今日まで「地球環境問題」、「企業倫理問題」、「コーポレート・ガバナンス（企業統治）問題」が議論されてきた。今日のCSRへの世界での関心の高まりには、これらの関連する議論を踏まえ、「企業の経営責任」を総合的に問いなおそうとの問題意識が横たわっているように思われる。特に、ヨーロッパでのCSRへの取り組みは、この意識が強く、かつそこに留まらず、「企業経営の根本的改革」を「多様なパートナーシップによる新しい社会の創造」という文脈のなかで捉え、実践しようとしている。日本においても、代表的企業約100社は、このような動向を真摯に捉え、実践しつつある。注目すべき点は、このような問題の理解とそれへの応答をより確かにすべく、従来型のいわゆる「社内教育」を大胆に削除しているにもかかわらず、「経営倫理やCSRに関する教育」に積極的に多くのさまざまな資源を投入し始めたことである。

かかる情勢のなか、大学生がこの問題に無関心であったり、また、さらに重要な点であるが、大学がこの種の教育機会を提供できないと言う状況では、問題である。我々は、上述した諸問題が浮上する文脈、及びかかる諸問題への応答の実態を理解、解釈し、将来を展望する機会を大学生に提供する義務と責任がある、と強く思う。この講義では、「CSRの理論と実践が如何にあるいはどの様に経営革新につながっていくのか」を日本とヨーロッパの動向を比較検討し、将来への課題を提示することにした。

講師陣は、若干の大学の研究者を含めるが、最新の情報を提供してもらい、このテーマに関する将来展望を共に考えていくために、企業やNPOで現在この種の問題に係わっている人、またかつて係わり現在は独自に活躍している人を中心に構成する予定である。

【講義計画】

1. 講義の意図と目的
2. 学問と経営世界—21世紀における経営学—
3. 経営と社会—経営実践の社会的意義と経営革新—
4. 人間と経営—「人間を生かす経営」と「経営を生かす人間」—
5. CSRを巡る社会的歴史的背景
6. CSRに関する世界の動向（1）USA
7. CSRに関する世界の動向（2）EU
8. CSRに関する世界の動向（3）UK
9. CSRに関する世界の動向（4）Germany
10. CSRに関する世界の動向（5）Asia
11. CSRに関する世界の動向（6）China
12. CSRに関する世界の動向（7）Korea
13. CSRに関する世界の動向（8）Japan
14. まとめと総括的ディスカッション

【成績評価の方法】

出席状況と試験の結果で評価する。

【教科書】

使用しない。毎回レジメないし資料を配付する。

【参考文献】

- A 各企業のホームページで「環境・社会報告書」ないし「社会報告書」あるいは「サステナブル報告書」等のSCR関係の報告書を読覧することを進める。
- B 伊吹英子著『CSR経営戦略』東洋経済新報社、2005年。
- C 岸田眞代編著『NPOからみたCSR』同文館、2005年。
- D 水尾順一・田中宏司編著『CSRマネジメント』生産性出版、2004年。
- E 高 巖・辻 義信・Scott T. Davis・瀬尾隆史・久保田政一共著『企業の社会的責任』日本規格協会、2003年。
- F その他適時提示する。

【備考】

インテグレーション科目

科 目 名			
経営学特講－CSRと経営革新（Ⅱ）			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	谷 口 照 三

【講義概要・学習目標】

今日、再び、世界で「企業の社会的責任」がクローズアップされている。「企業の社会的責任」は英語では Corporate Social Responsibility である。今日では、「企業の社会的責任」を CSR と表現することが一般的となった。この問題が世界的に話題となったのは、1960年代の後半から1970年代の初期にかけてであり、それは主として公害問題が契機となった。その後、1970年代の中頃から1980年代に「企業の文化活動」や「フィランソピィー」（いずれも企業の社会への寄付や奉仕活動による社会貢献活動）が、1990年から今日まで「地球環境問題」、「企業倫理問題」、「コーポレート・ガバナンス（企業統治）問題」が議論されてきた。今日のCSRへの世界での関心の高まりには、これらの関連する議論を踏まえ、「企業の経営責任」を総合的に問いなおそうとの問題意識が横たわっているように思われる。特に、ヨーロッパでのCSRへの取り組みは、この意識が強く、かつそこに留まらず、「企業経営の根本的改革」を「多様なパートナーシップによる新しい社会の創造」という文脈のなかで捉え、実践しようとしている。日本においても、代表的企業約100社は、このような動向を真摯に捉え、実践しつつある。注目すべき点は、このような問題の理解とそれへの応答をより確かにすべく、従来型のいわゆる「社内教育」を大胆に削除しているにもかかわらず、「経営倫理やCSRに関する教育」に積極的に多くのさまざまな資源を投入し始めたことである。

かかる情勢のなか、大学生がこの問題に無関心であったり、また、さらに重要な点であるが、大学がこの種の教育機会を提供できないと言う状況では、問題である。我々は、上述した諸問題が浮上する文脈、及びかかる諸問題への応答の実態を理解、解釈し、将来を展望する機会を大学生に提供する義務と責任がある、と強く思う。この講義では、「CSRの理論と実践が如何にあるいはどの様に経営革新につながっていくのか」を日本とヨーロッパの動向を比較検討し、将来への課題を提示することにした。

講師陣は、若干の大学の研究者を含めるが、最新の情報を提供してもらい、このテーマに関する将来展望を共に考えていくために、企業やNPOで現在この種の問題に係わっている人、またかつて係わり現在は独自に活躍している人を中心に構成する予定である。

【講義計画】

1. CSRを語る文脈と視座
2. 日本における主要企業の動向（1）
3. 日本における主要企業の動向（2）
4. 日本における主要企業の動向（3）
5. 政府・自治体・経済団体とCSR
6. NPOとCSR
7. 監査役とCSR
8. 経営コンサルタントとCSR
9. 企業倫理担当者とCSR
10. 経営者とCSR
11. CSRに関する理論的再構成（1）：経済学的視座とCSR
12. CSRに関する理論的再構成（2）：Risk Managementの視座とCSR
13. CSRに関する理論的再構成（3）：組織論的視座とCSR
14. CSRに関する理論的再構成（4）：拡張された経営学的CSR論の構想と総括的ディスカッション

【成績評価の方法】

出席状況と試験によって評価する。

【教科書】

使用しない。

【参考文献】

- A 各企業のホームページで「環境・社会報告書」ないし「社会報告書」あるいは「サステナブル報告書」等のSCR関係の報告書を読覧することを進める。
- B 伊吹英子著『CSR経営戦略』東洋経済新報社、2005年。
- C 岸田眞代編著『NPOからみたCSR』同文館、2005年。

- D 水尾順一・田中宏司編著『CSRマネジメント』生産性出版、2004年。
 E 高 巖・辻 義信・Scott T. Davis・瀬尾隆史・久保田政一
 共著『企業の社会的責任』日本規格協会、2003年。
 F その他適時提示する。

【備考】

インテグレーション科目

科 目 名			
経営学特講－証券の基礎知識			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	松 尾 順 介

【講義概要・学習目標】

この講義の目標は、証券市場と証券投資の基本的な知識を解説するものである。近年、日本の個人金融資産の高まりや、貯蓄から投資へという流れの中で、金融リテラシーや投資教育が重視されるようになっており、投資や金融に関する知識は、社会人の必修項目のひとつとなっている。したがって、本講義では、そのような基本的な知識を手依拠しようとするものである。なお、本講義は、野村証券の提供する講座であり、毎回野村証券の担当者がリレー講義を行うことになっている。

【講義計画】

冒頭の講義の際に提示される予定である。

【成績評価の方法】

期末試験による評価とするが、小課題を出すこともあり、それも加味する。

【教科書】

特に指定しない。

【参考文献】

特に指定しない。

【備考】

インテグレーション科目

科 目 名			
経営学特講－日本人の行動様式			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	春学期 秋学期	2単位	遠 山 淳

【講義概要・学習目標】

This is an introductory course on the Japanese code or patterns of behaviour viewed from their distinctive features of communication.

Japanese people are often given rather negative remarks to the effect that they are inscrutable. Why is Japanese culture regarded as so difficult to understand compared to some other cultures? There are sharply increasing occasions for Japanese people to see people from other cultures within Japan as well as overseas. The behaviour the Japanese people act in a very 'natural' way, not all but a large part of it, seems to be inexplicable for those of different cultures.

【講義計画】

This series of lectures will examine Japanese cultures of communication for their behavioural code and patterns.

1. Introduction. Relationship between communication and culture. A Tendai (T'ient' ai) Buddhist sect view of the object
2. The prototypes of communication and the orientations of communication
3. The patterns of communication and their comparative analysis
4. The Japanese and the double-track communication pattern (1)
5. The Japanese and the double-track communication pattern (2)
6. Japanese non-verbal communication
7. Japanese 'discussion' (Hanashiai) and the process of decision-making
8. Japanese human relations(1)-'Tate'(Vertical) vs 'Yoko'(Horizontal)
9. Japanese human relations(2)-'Uchi'(In-group) vs 'Soto'(Out-group)
10. Japanese human relations (3) -Individualism vs groupism
11. Japanese behavioural code (1)-'Hana'(Name) or 'Dango'(Substance)
12. Japanese behavioural code (2) -The three cities in Japan:Tokyo, Kyoto, Osaka
13. Japanese sense of beauty-Japanese beauty and Shinto
14. Japanese view of religion-Shinto and Buddhism
15. Summary. Japanese view of nature

【成績評価の方法】

The assessment will be made according to the student's attendance and participation.

The result of the term-end essay will be an integral part of the evaluation.

【教科書】

Handouts will be provided.

【参考文献】

A bibliography will be announced in class.

【備考】

英語による授業です

科 目 名			
経営学特講－パソコンによる経理			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	秋学期	2単位	安 井 一 浩

【講義概要・学習目標】

経理用ソフト「弥生会計」を使用してパソコンによる経理実務を学習しますが、現実の会社経理には欠かせない消費税等の課税かどうかの判断、ソフト設定を含めて説明します。

また日常的な経理実務に加え表計算ソフトの利用、基本的な原価計算手続、決算整理事項、法人税の処理、財務諸表の作成などやや高度な実務が出来るようになることを目標とします。

なおこの講義は春学期のコンピュータ会計を履修したこと及び日本商工会議所簿記検定2級の内容を理解していることを前提とします。

【講義計画】

経理用パソコンソフトによる消費税等の処理を含む日常業務に必要な知識を説明したあと、表計算ソフトの活用方法を説明します。続いて各種税金の処理及び決算特有の処理、決算書の作成に関する事項を説明します。なお講義は例題中心に進める予定です。

【成績評価の方法】

出席回数、講義中の態度、貢献度及び考査を総合的に考慮して評価します。

【教科書】

特に使用しない。

科 目 名			
経営学特講－ビジネスと文化			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	三 宅 亨

【講義概要・学習目標】

With the coming of the 21st century, the world is changing rapidly than ever. Steadily advancing IT revolution is changing our society, industry and lifestyles. In addition, ongoing globalization requires better communication and closer cooperation across cultures among other things. In this class, a wide range of topics will be taken up for those who aspire to be "citizens of the world". The class will be taught by different faculty members each week, and conducted entirely in English. Students are encouraged to participate in lively discussions.

【講義計画】

Tentative List of Topics to be presented:

1. Globalization and English
2. Japanese Agriculture
3. Deregulation of Economy & Corporate Restructuring in Japan
4. Japanese Retailing Industry
5. Steel Industry in Japan and the World
6. Insurance Business in Japan
7. Japanese Culture and Communication
8. Cultural Differences

There will be some changes before the class starts. The final list of the topics will be distributed in class at the beginning of the semester.

【成績評価の方法】

Strict attendance is required. In place of the final examination, the students are required to submit papers written in English on several topics to be presented during the course.

【教科書】

No textbooks are used in this course. Instead, handouts will be provided in class.

【参考文献】

To be announced in class.

【備考】

インテグレーション科目
英語による授業です

科 目 名			
経営管理論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	春学期集中 秋学期集中	4単位 4単位	村 上 伸 一

【講義概要・学習目標】

経営管理（マネジメント）論はアメリカ経営学の中心に位置し、1世紀余りの歴史をもっています。支配から、価値を創造する協働の適応的調整としてのマネジメントへの人々の意識のシフトは、自由や機会平等といった基本的な人権を基盤とする近代市民社会の成立に由来すると考えられます。

経営管理の場は組織ですから、経営管理論と組織論とは一体的に発展を遂げています。現代社会は学校や病院など多様で膨大な組織から構成されていますが、本講義では、主に企業に焦点を絞ることにします。現代の日本を中心にビジネス事情と経営管理の実態を概観しながら、組織と管理に関する理論を学んでいきましょう。

主に基盤的理論を学習しますが、学習を通して、実践的有用性のみならず、知的な面白さも実感し、自ら学ぶ意思を固めていくこと、これが当面の目標となります。

【講義計画】

オリエンテーション

イントロダクション

第1講 経営管理と経営管理者

第2講 経営学と経営管理論

第3講 経営管理と経営管理学説：実務と学際的応用社会科学

第4講 近代経営管理論：意思決定論

第5講 経営組織論

第6講 戦略的経営管理論

第7講 価値創造の経営管理論

コンクルージョン

【成績評価の方法】

試験成績により評価します。ビデオや教科書利用のミニ・レポートを講義中に書いていただき、それを評価に加える可能性もありますので、毎回教科書を持参下さい。

【教科書】

村上伸一『価値創造の経営管理論（改訂4版）』創成社、2007年。

【参考文献】

眞野 脩『組織経済の解明』文眞堂、1978年。

図書館で読むことができます。その他、適宜紹介します。

科 目 名			
経営工学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	明 石 吉 三

【講義概要・学習目標】

経営工学は経営諸問題に対する科学的・数理的接近法である。この分野は英国、米国の軍事研究を発端に生まれた。その後、IE (Industrial Engineering)、オペレーションズ・リサーチ、経営科学という研究分野が生み出され、様々な経営上の課題の解決に寄与してきた。特に、我が国の戦後の経済発展に多大な貢献をしてきたといえる。

本分野は、数学的解析・計画手法、生産管理、品質管理、在庫管理、意思決定等に関する研究が含まれ、極めて広範囲である。本講義では、受講生が文系諸君であることを念頭に、経営工学のアプローチの意義、手法、特に、モデル化の重要性を講義する。高度な数学的知恵を必要としないようにしたいと考えている。

【講義計画】

以下の内容を講義する予定である。

- (1) 経営工学とは何か
- (2) 数理計画法の基本
 - a. 線形計画法
 - b. PERT手法：プロジェクト管理
 - c. 組合せ問題
 - d. 近年の話題：ニューロ・アルゴリズム
遺伝的アルゴリズム
- (3) 在庫管理論
- (4) 品質管理論
- (5) その他：意思決定論、予測理論等

【成績評価の方法】

レポートおよび試験による総合評価により行います。
出席確認は適宜実施します。

【教科書】

特にありません。講義ノートは、講義単位の終了後、各自要求してコピーしてください。

【参考文献】

必要に応じ適宜指示します。

【備考】

講義内容が広範囲です。出席が不可欠です。

科 目 名			
経営財務論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	今 木 秀 和

【講義概要・学習目標】

企業は、さまざまな経営資源を必要としている。人、物、金、情報の資源がそれである。このうち金（カネ）という資源を対象として講義を行うのが経営財務論である。

金（カネ）は、経営財務論では資本といわれる。企業は、資本を証券市場や金融市場、さらには企業内部から調達する。調達した資本は、目的や用途に合わせて資産の形態で運用される。運用の結果は、損益として把握され、配当その他として処分される。資本の調達、運用、利益処分が、この講義の主要な問題領域である。

経営財務の基礎知識の習得が、この講義の目標である。

【講義計画】

- 第1部 財務の基礎
- 第2部 キャッシュフローと資金管理
- 第3部 投資決定と企業価値
- 第4部 資本調達と配当政策
- 第5部 経営戦略と財務

【成績評価の方法】

成績評価は、学期末テストを基本とする。経営財務の基礎知識の習得が、この講義の目標であるので、基礎知識の習得がどの程度できているかをテストによって判定することを基本とする。

途中で学習を整理し、理解を深めるために数回レポートの提出を求める。また毎回出席をとる予定である。テストを基本としながらも、テストの結果に、レポート、出席状況を加味して評価する。

【教科書】

教材として次の本を使う。

榊原茂樹、菊池誠一、新井富雄共著
『現代の財務管理』有斐閣

【参考文献】

若杉敬明著 『入門ファイナンス』 中央経済社
坂本和夫編著 『テキスト財務管理論』 中央経済社
後藤幸男他著 『新経営財務論講義』 中央経済社
井出正介他著 『経営財務入門』 日本経済新聞社
村松司叙著 『財務管理入門』 同文館
杉井弘和編著 『企業財務論』 税務経理協会

【備考】

<02生～06生>
共通自由科目として、B生対象外
B生は学科教育科目

科 目 名			
経営史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	長谷川 彰

【講義概要・学習目標】

経営史学は、比較的新しい学問である。約50年前に我が国に紹介され、その後着実に発展してきている。近年におけるこの分野の研究成果には目を見張るものがある。

本年度の講義は、まずこの経営史学の成立、発展の歴史的過程を明らかにするところから始めたい。そして、その過程で生まれた企業者史学についても触れておきたい。

そして、具体的な事例研究としては、その場を日本に求めて、近世社会の商業・経営史を明らかにしていき、続いて、近代社会、現代社会の経営史についても触れていきたい。

【講義計画】

- 1・経営史学の成立と発展
- 2・企業者史学の台頭
- 3・近世社会の経営史
- 4・近代社会の経営史
- 5・現代社会の経営史

【成績評価の方法】

試験を中心に行う。

【教科書】

特に指定はしない。

【参考文献】

適宜指定する。

科 目 名			
経営情報基礎			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	秋学期	2単位	深 谷 清 之
02	秋学期	2単位	深 谷 清 之
03	秋学期	2単位	牧 野 丹 奈 子
04	秋学期	2単位	牧 野 丹 奈 子

【講義概要・学習目標】

経営学部における経営情報関連の講義は、以下の4つである。

- ・“情報技術”について学習する「経営情報技術論」
- ・“情報システム”について学習する「経営情報システム論」
- ・“情報化と組織”について学習する「情報化組織論」
- ・“情報利用と計画”について学習する「経営工学」

この講義は、上の4つの講義のイントロダクションとして位置づけられる。それぞれの基礎的内容を学習する。また、上記の内容に加え、4つの講義を理解するために最低限必要な数学の基礎も学習する。

この講義の目的は、経営管理や組織運営にとって、情報、コンピュータ・システム、IT（情報技術）、モデル化の技術が不可欠であることを認識してもらい、より広くは、さまざまな意思決定の局面において、論理的思考、ないしはシステム思考が大きな助けとなることを理解してもらうことである。

【講義計画】

- ①オリエンテーション
- ②数学基礎
- ③「経営情報技術論」の基礎
- ④「経営情報システム論」の基礎
- ⑤「情報化組織論」の基礎
- ⑥「経営工学」の基礎
- ⑦まとめ

【成績評価の方法】

レポートおよび期末試験

【教科書】

プリント配布

【参考文献】

必要に応じて指示する。

科 目 名			
経営情報システム論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	深 谷 清 之

【講義概要・学習目標】

1951年に世界最初の電子計算機が販売されて以来、コンピュータは、製造、流通、金融、行政などの多くの組織において多様な使われ方をし、経営のあり方に大きな影響を与えて来た。特に近年は、コンピュータ技術や通信技術などを駆使して、経営戦略の企画・検証、組織の再構成、意思伝達メカニズムの効率化などが戦略的に進めている。

本講義では、まず、そのような経営情報システムとは何かを概観したあと、情報システムを効果的に導入していくつかの先進的な事例を紹介し、その効果はどのようなものかについてケーススタディを通じて講述する。

次に、経営情報システムを理解するために必要な最小限の基本的な情報技術を紹介した後、組織における情報管理、組織と情報システムの関係、業務形態と情報システムの関係、経営と情報システムの関係などを学ぶ。

【講義計画】

- ・経営情報システムに関する概論
- ・企業における先進的情報システム事例
- ・経営情報システムにおける基本情報技術と情報管理
- ・組織と情報システム
- ・業務形態と情報システム
- ・まとめ

【成績評価の方法】

授業の出席状況、レポート及び期末試験で総合的に評価する。

【教科書】

プリント配布

科 目 名			
経営分析			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	河 合 隆 治

【講義概要・学習目標】

経営分析は、どの会社が強いのか、もしくは弱いのかについて、貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書といった会計情報を利用して分析する分野です。

このような分析は、会計や金融を専門とする職業に就く場合だけでなく、みなさんがどの会社に就職しようか迷った時、株式を買う時、会社の状況を財務的に把握する時に役立ちます。

本講義では、経営分析の基本的な考え方や計算方法を理解することを目的とします。経営分析ができるようになるためには、基本的な考え方を理解するだけでなく、実際に分析できる必要がありますので、講義の途中で受講生みなさんに簡単な計算をして頂きます。本講義を修了することにより、「会社四季報」などに書かれている会社に関するデータの意味がわかるようになり、証券アナリスト試験を受けるための基礎的な力がつくこととなります。

本講義を受ける上で、経営学部の必修科目である「商業簿記」の知識を習得済み、もしくは並行して習得していることが望ましいです。しかし、本講義を理解する上で必要な簿記や会計学の知識は、必要に応じて簡潔に説明しますので、これらの知識を持っていなくても経営分析を理解することは可能です。

【講義計画】

本講義は、大まかに以下のように進めます。

- 1 経営分析とは何か
- 2 貸借対照表で何がわかるか
- 3 損益計算書で何がわかるか
- 4 会社の財務安定性はどうか
- 5 会社の収益力は十分か
- 6 会社の活性度はどうか
- 7 会社の発展性はあるのか
- 8 資金繰りは十分か
- 9 会社に勤める従業員の能力はどうか
- 10 総合的に会社の状態を分析する

講義の進度は講義の途中で計算演習や受講者の理解度をみて調整します。計算演習を行いますので、受講者は毎週計算機(電卓)を持参してください。

講義計画や成績評価方法などの詳細については初回の講義で説明しますので、受講希望者は必ず出席してください。

【成績評価の方法】

期末試験結果を中心とし、出席、発表を加味して評価を行います(昨年度実績：試験100点、出席10点、発表5点)

※講義受講者の様子を考慮して得点配分を決めるため、昨年同様のウエイトで評価しません

【教科書】

森田松太郎『ビジネス・ゼミナール：経営分析入門』日本経済新聞社、2002年。

【参考文献】

- ・桜井久勝『財務諸表分析第二版』中央経済社、2003年。
- ・乙政正太『基本テキストシリーズ：財務諸表分析』同文館出版、2005年。

・ほぼ毎回必要な補助資料(プリント)を配布します。分量が多いので、ファイルを用意してください。

・その他の参考文献については、必要に応じて講義の中で指示します。

科 目 名			
経営労務論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	正 亀 芳 造

【講義概要・学習目標】

21世紀に入り、厳しい経済環境のもとで日本企業は様々な改革に取り組んでいます。中でも、経営労務に関わる諸制度の改革が盛んです。経営労務とは、経営を構成するヒト・モノ・カネの3要素のうち、ヒトに関わる管理をいいます。企業経営を動かすのはヒトであり、その働き如何が経営を左右します。企業を取り巻く経済・社会環境に加え、ヒトの価値観も転換期にある今日、従来の終身雇用と年功序列を基礎とした経営労務のあり方もその転換が求められています。本講義では、現代の日本企業が経営労務において直面している諸問題を可能な限り多面的に考察し、その展望を試みたいと思います。

現代の日本企業が直面している経営労務の主要な問題は何かを理解すること、それが当面の学習目標となります。

【講義計画】

テキストに従って、概ねその順序で講義を進めます。

- | | |
|-------------------|--------------|
| 1. 経営労務論とは | 2. 企業経営と経営労務 |
| 3. 働く動機－モチベーション論 | |
| 4. 人を動かす－リーダーシップ論 | |
| 5. 職務設計 | 6. 組織設計 |
| 7. 雇用管理 | 8. キャリア開発 |
| 9. 人事考課制度 | 10. 専門職制度 |
| 11. 賃金制度 | 12. 福利厚生制度 |
| 13. 労使関係 | 14. 女性労働者 |
| 15. 高齢労働者 | 16. 研究開発技術者 |

【成績評価の方法】

①期末試験の成績、②数回実施する小テストの成績、③レポートの成績、を総合して評価します。

【教科書】

奥林康司編著『入門 人的資源管理』中央経済社、2003年。

【参考文献】

吉田和夫・大橋昭一編著『基本経営学用語辞典』(四訂版) 同文館、2006年。

奥林康司・平野光俊編著『フラット型組織の人事制度』中央経済社、2004年。

その他、講義中に適宜指示します。

科 目 名			
景気循環論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	滝 田 和 夫

【講義概要・学習目標】

バブル崩壊から十数年、全体として停滞的・慢性不況的に推移してきた日本経済もようやく停滞を脱し、ここ数年間順調な回復を続けている。この景気回復のおかげで、4回生の就職状況も改善してきており、今年の就職も好調に推移したようである。しかし、アメリカ経済は住宅バブルの崩壊と自動車産業の不振によってすでに減速してきており、日本経済もその影響を受けて再び景気後退局面を迎えるのではないかと懸念されている。学生諸君は、自分の就職がどうなるのか不安に思うと同時に、なぜ資本主義経済において好況・不況の景気循環が存在するのか、疑問に思っていることだろう。この講義では、景気循環に関する標準的・基本的な理論を理解することに主眼を置き、併せてその問題点を検討していきたい。なお、景気循環論はマクロ経済学の応用の側面をもつので、経済原論 I A-2 を修得済みであるか、またはこの講義と並行して履修されることが望ましい。

【講義計画】

第 I 部 景気循環とは何か

第 1 章 景気循環の定義

第 2 章 景気循環の測定

第 II 部 景気循環の諸理論

第 3 章 景気循環理論の基礎

第 4 章 乗数・加速度理論

第 5 章 非線型景気循環論

第 6 章 不規則衝撃の理論

第 7 章 均衡景気循環論

【成績評価の方法】

試験の成績による。試験の回数や出席をとるかどうかは受講者数を見て決める。

【教科書】

指定しないが、講義第 II 部については参考文献 1 の第 II 部が参考になる。なお、随時プリントを配布する。

【参考文献】

1. 浅利一郎著『IT時代のマクロ経済学』(実教出版社)

2. 置塩信雄編著『景気循環』(青木書店)

3. 長島誠一著『景気循環論』(青木書店)

4. J. R. ヒックス(著) 古谷弘(訳)『景気循環論』(岩波書店)

科 目 名			
経済開発論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	望 月 和 彦

【講義概要・学習目標】

テーマ：経済開発の歴史と現状

イラクやアフガニスタンの現状を見れば、貧困がテロの温床となっていることが分かる。テロを撲滅するためには、貧困の解消、即ち経済発展を促進しなければならないのであり、その意味で開発途上国の経済発展問題は、すでに高い生活水準を達成した先進諸国にとっても他人事ではない。

それではどうすれば経済発展・経済開発に成功することができるのだろうか。それは経済発展の歴史に学ぶしかない。そこで産業革命以後、20世紀初めまでの経済発展の歴史の説明を行う。

また経済発展は私たちに豊かな生活をもたらすと同時に色々な弊害も引き起こしている。その中でもっとも深刻と思われるのは環境問題であり、資源問題であり、人口問題である。本講ではこれらの問題を取り上げていく。中心となるのは資源・環境問題であり、これらの問題が果たして経済成長をストップさせるかどうかを考えていく。

最後に経済発展に必要な社会条件について論じる。

本講では、色々な問題に対して全く異なる接近法をとったり、世間一般に信じられていることは全く正反対の議論が行われることがある。そのため授業に出ることのできない学生諸君が単位を取ることは大変難しい。受講生には、柔軟な思考、冷静な判断力が求められる。

なお授業計画は昨年度のものをご承知おきいただきたい。

【講義計画】

第一部 経済発展の歴史的意義

- 第1章 成長と停滞 どちらが当たり前？
- 第2章 進歩思想vs終末思想
- 第3章 産業革命の意義
- 第4章 第一次世界大戦
- 第5章 大量生産方式の成立

第二部 環境問題と成長の限界

- 第1章 現代の終末思想としての環境問題
- 第2章 今日の環境問題の類型
- 第3章 オゾン層破壊
- 第4章 地球温暖化
- 第5章 生物種の多様性、砂漠化、森林破壊
- 第6章 廃棄物問題

第三部 資源問題

- 第1章 資源と経済成長
- 第2章 資源問題の真相
- 第3章 エントロピーの妥当性
- 第4章 経済成長に対する真の制約

第四部 経済発展の要因

- 第1章 経済発展の要因についてのこれまでの議論
- 第2章 経済発展の要因としての秩序
- 第3章 秩序の源泉
- 第4章 まとめ

【成績評価の方法】

期末試験の成績のみによって評価する。

【教科書】

なし

【参考文献】

最初の講義の際に配布する受講生用シラバス（講義計画）で指示する。

科 目 名			
経済学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期集中	4単位	井 田 憲 計

【講義概要・学習目標】

この講義は、経済学を主要な専攻とすることがないであろう諸君を対象とする入門的な講義である。

経済学の専門用語と基本的な考え方を概説し、新聞や雑誌の経済記事あるいは政府の『経済財政白書』などの内容を理解するための基礎学力の習得をめざす。公務員試験などの練習問題にもチャレンジしていく。

受講生諸君には、経済の動きを論理的に考察することの大切さを理解していただければと思っている。「経済学的な物の考え方」は、今後社会に出てからもあらゆる場面できっと役に立つものであろう。

【講義計画】

以下のようなテーマについて、まずは概説の後、適宜立ち戻って詳細に扱う。

- I. 経済学のもの見方考え方
 - 経済学とは
 - 市場の役割
 - 日本の経済力
 - 日本経済と世界経済の現状
- II. ミクロ経済学
 - 需要と供給
 - 消費者の行動
 - 企業の行動
- III. マクロ経済学
 - GDP（国内総生産）
 - 所得・支出分析
 - 総需要政策
 - 貿易と為替
 - 経済の成長と変動

【成績評価の方法】

出席、講義時間中の小テスト（不定期）、講義時間外の間レポート（1回程度）、期末試験、を総合して評価を行う。

【教科書】

特に指定しない。
適宜プリント等を配布する。

【参考文献】

伊藤真監修、加緒須信夫・杉田秀雄編著『伊藤塾の経済学攻略ゼミ』中経出版（¥1,500+税）
資格試験研究会編『速攻！まるごと経済学-ミクロ・マクロ経済理論-』実務教育出版（¥1,300+税）
西村和雄『入門経済学ゼミナール』実務教育出版（¥2,913+税）

か
行

科 目 名			
経済学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	春学期集中	4単位	西 川 憲 二

【講義概要・学習目標】

日常生活の中で、私達は日々いろいろなことを選択し決定をしている。このとき「お金」が大きな決定要因になっていることが少なくない。このことは、私たちが「経済学」に取り込まれていることを意味している。言い換えると、経済学とは、我々の選択を経済的側面から解き明かしていく学問である。そればかりではなく、経済学は、企業や国家の選択や行動を説明する。そこで、経済学から、個人・企業・国家（経済政策）を眺めることによって、私たちの生活と社会がどのように機能しているのか、これからの日本経済はどうなっていくのか考えてみたいと思う。

【講義計画】

1. 経済学とは
2. 日本経済と世界経済の現状
3. マクロ経済学
 - GDP
 - 所得・支出分析
 - 総需要政策
 - 銀行制度
4. 貿易と為替レート
 - 比較優位の法則
 - 円高・円安
5. ミクロ経済学
 - 消費者の行動
 - 企業の行動（独占・完全競争・不完全競争）
 - 公共部門の行動

【成績評価の方法】

出席、小テスト、学期末テスト

【教科書】

特に指定しない。

【参考文献】

スティグリッツ著「入門経済学」「マクロ経済学」
「ミクロ経済学」東洋経済新報社

科 目 名			
経済学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	秋学期集中	4単位	熊 谷 次 郎

【講義概要・学習目標】

この講義は、所属学部のかんを問わず、経済の仕組みと動き、そしてそれを説明する経済学という学問について、常識的・基礎的な知識と思考力を会得したいと思っている諸君を対象としている。明治3年、福沢諭吉は欧米から導入されてきた（彼自身がその導入者でもあったが）経済学のことを、「眠食を忘れ候程面白きもの」と書いた。儒学しか知らなかった当時の知識人にとっては、市場社会なるものが形成され、そこで自由な個人が利己的利益を求めて行動する結果が、見事な社会的調和をもたらすことを説く経済学はそれほど面白く驚愕すべき学問であった。この講義が受講者にとって寝食を忘れるほどの面白さを持つものになるかどうかは自信がないが、いまでも経済学という科目は、世界のどこでも、福沢が驚愕した経済の仕組み、すなわち価格と需要と供給が相互に関連し依存しながら市場秩序が形成されている姿の説明から講義をはじめている。そこでこの講義でも「市場とは何か」ということを中心に経済学的なものの見方と考え方をまず最初に講義し、つぎにその見方や考え方を経済社会に具体的に適用するとうなるかということ、ミクロ経済学とマクロ経済学という現代経済学では必ず触れられる分野の基礎の基礎を学習することを目標としたい。

【講義計画】

以下の順序で講義する（予定）

- I. 経済（学）のものの見方と考え方
 1. 経済学とは何か
 2. 言語と市場
 3. 経済行動における合理性の問題
 4. 市場の役割
 5. 経済の循環
 6. 経済循環における貨幣の役割
- II. ミクロ経済学の基礎
 7. 需要と供給
- III. マクロ経済学の基礎
 - 8 フロートストック
 9. GDP（国内総生産）とは何か
 10. 経済の成長と変動
- IV. 政策的諸分野の基礎知識
 11. 金融
 12. 財政
 13. 外国貿易
 14. 貿易と外国為替
 15. 国際通貨制度
 16. 戦後日本経済概観

【成績評価の方法】

期末試験（その結果をもっとも重視）のほかに、数回の小テストを行う予定なので、これらの試験の結果を総合して評価する。

【教科書】

なし。毎回レジュメを配布する。

【参考文献】

必要に応じてその都度指示する。

科 目 名			
経済学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
04	秋学期集中	4単位	中 村 勝 之

【講義概要・学習目標】

この講義は「教養」としての経済学の知識を提供するものである。しかし資本主義社会が歴史の経過とともに成熟してきたのと同様に、学問としての経済学も歴史の経過とともに成熟してきており、短い講義期間でその全てを薄く網羅するのは難しいのが現状である。

そこでここでは、みんなが興味を持つであろう「国際経済」「株価」「失業」「景気および経済成長」という4つのトピックを取り上げ、大胆かつ平易(!)に解説していきたい。

なお講義進行は、極力実際のデータに触れつつ直感的な解説を加えるとともに、必要に応じて「数理モデル」を利用する予定である。これを通じて、データの見方や経済事象の原理(メカニズムといってもよかろう)の一端を理解してもらえたら存外の喜びである。

【講義計画】

※以下の順序で進行していく。

- ①ガイダンス：学習目標と成績評価基準の提示
- ②国際経済：国際収支、貿易と為替レートに関する不思議なお話。
- ③株価：株価の原理的決定に関する不思議なお話。
- ④失業：労働市場に関する不思議なお話。
- ⑤景気と経済成長：成長と循環に関する不思議なお話。

【成績評価の方法】

- ①講義中に行われる「小テスト」(講義期間中に5回程度実施)
 - ②講義期間中頃に行われる「中間試験」
 - ③最終講義時に行われる「期末試験」
- ※上記①～③の獲得点数をもとに、一定のルールにしたがって評点を算出し、必要であれば加点措置を行う。なおこの加点措置に、いわゆる「出席点」は入らない。

【教科書】

使用しない。適宜講義資料(レジュメ)を配付する。

【参考文献】

適宜提示する。

【備考】

試験情報などはホームページ(<http://rio.andrew.ac.jp/~nakamura/>)を参照すること。

科 目 名			
経済学基礎理論A			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	4単位	麻 生 憲 一

【講義概要・学習目標】

経済学には特殊な専門用語が非常に多く、そのうえ数式や統計データなども含まれているため経済学を勉強したことのない門外漢にとって、その理解は至難の業である。また日頃、新聞や雑誌などで財政・金融政策の記事は目にはするけれど、その内容を正確に理解できている人は案外と少ない。しかし、多少なりとも経済学的な考え方や専門用語を理解しているだけで経済記事の読み方や現実経済の見方が変わってくるのも事実である。その意味で、経済学は生きた学問としての醍醐味を与えてくれる。

本講義は、初めて経済学を学ぶ学生を対象として、経済学のミクロ理論とマクロ理論の基礎的な考え方、専門用語、図表の見方などを概説する。

知識の習得は重要なことではあるが、ただ単に暗記に終わることのないよう配慮して講義を進めていく。

【講義計画】

以下の内容を適宜選択して説明する。

- 経済学の基本概念
- 経済主体の行動様式(家計と企業)
- 完全競争市場と不完全競争市場
- 市場の失敗
- 国民経済計算
- 消費理論
- 投資理論
- 国民所得決定
- 財政金融政策
- 失業とインフレ

【成績評価の方法】

定期試験とレポート、出席により評価する。毎回授業の終わりに行う「授業内容質問用紙」が出席カードとなる。

【教科書】

使用しない。必要に応じてプリント配布する。

【参考文献】

授業中にその都度指示する。

【備考】

<02~07生>
共通自由科目として、E生対象外
E生は学科自由科目

科 目 名			
経済学基礎理論A			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	春学期集中	4単位	三 原 裕 子

【講義概要・学習目標】

マクロ経済学とミクロ経済学に関するテキストを図書館等で探してみると、それぞれ独立したコーナーに設けられており、これらを同時に1つのテキストで扱っているものは意外と多くありません。

よって、これら2つの経済学の間にはあたかも全く何の関係もないかのような印象を受けることもあるでしょう。ところが、経済はまさに「生き物」であり、経済主体である「家計」、「企業」、「政府」の行動によって大きく影響を受けます。したがって、個々の経済主体の行動と経済の動きは全く無関係ではなく、むしろ個々の経済主体の行動によって経済全体のパフォーマンスが記述されるのです。そこで、本講義では現実の経済活動を捉える一時接近として、個々の経済主体の行動が経済全体に与える影響を「世代重複モデル」という分析ツールを用いて学ぶことを最終目的とします。

議論をより明快に行うために、講義を進めていく中で若干の数学を用います。しかし、必要である知識は随時説明していきますので、諦めずに手を動かす癖をつけてください。

【講義計画】

受講生の数や講義を進めていく中で、若干の変更があると思いますが、基本的な講義は以下の通りです。

- ・ミクロ経済学
 - 家計の行動
 - 企業の行動
- ・マクロ経済学
 - 国民所得に関する諸概念
 - 世代重複モデルの基本
 - 世代重複モデルの応用

【成績評価の方法】

- ・出席はとりません
- ・授業中に行う小テスト、中間試験および学期末試験で総合的に評価します

【教科書】

適宜レジュメを配布します。

【備考】

<02～07生>
共通自由科目として、E生は対象外
E生は学科教育科目

科 目 名			
経済学基礎理論A			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	春学期集中	4単位	中 村 勝 之

【講義概要・学習目標】

我々の時間認識が早まっているのか、はたまた情報の伝達速度が速くなったためかどうかは不明だが、ここ数年の時間で区切ってみても、国内外問わず相当数の経済問題が噴出した。しかし時がたつにつれて問題にされた事象もいつの間にか解決（ないしは済し崩しに）され、我々の記憶から忘れ去られる。このこと自体は自分の将来設計になんら問題なさそうだが、そうではない。ある経験をすると、次に似たような状況になったときに同じ結果を招かないようにするのが人間の真の知恵であり、ここに歴史を学ぶ意味がある。

この講義は「基礎理論」と銘打ってあるが、過去数年間における日本経済で話題になった事象について、その背景と顛末について解説していく。背景と顛末については事実を述べるとともに、経済理論としてどう描くことができるのかをしっかりと押えていく（ここに「基礎理論」の意味を求めたい）。その中で、ある事象が生じるには必ずどこかに原因があり、結果はその必然として生じることを理解していきたい。なお、必要に応じて数学を利用して行くので、この点を覚悟した上で受講に臨んで頂きたい。

【講義計画】

※以下の順序で講義をしていく。

- ①ガイダンス:学習目標と成績評価を提示
- ②GDPとは?
- ③過去5年間の日本経済の動向
- ④金融と企業の再構築とその評価
- ⑤構造改革における家計の対応と新たな課題
- ⑥トビック

【成績評価の方法】

- ①講義時間中に行われる「小テスト」（5回程度実施）
 - ②講義期間中頃に行われる「中間テスト」
 - ③最終講義時に行われる「期末テスト」
- ※上記①～③の獲得点数をもとに、一定のルールにしたがって評点を計算し、必要であれば加点措置を行う。なおこの加点措置に、いわゆる「出席点」は入らない。

【教科書】

使用しない。適宜資料（レジュメ）を配付する。

【参考文献】

内閣府編『経済財政白書』（平成14年版～18年版）

【備考】

試験情報などはホームページ (<http://rio.andrew.ac.jp/~nakamura>) を参照すること。

<02～07生>
共通自由科目として、E生は対象外
E生は学科教育科目

科 目 名			
経済学基礎理論A			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
04	秋学期集中	4単位	吉 田 恵 子

【講義概要・学習目標】

ミクロ経済学と、マクロ経済学の概要を理解すること。
 具体的には、消費者・企業・政府といった経済主体の行動を分析するミクロ経済理論の基礎と、日本経済や世界経済の全体の動きを分析するマクロ経済理論の基礎を紹介する

【講義計画】

イントロダクション
 ミクロ経済学とは
 需要と供給
 労働市場の経済学
 マクロ経済学とは
 GDPはどのように決まるか
 まとめ

【成績評価の方法】

小テスト（4回）と期末テスト

【教科書】

指定しない

【参考文献】

「マンキュー経済学〈1〉ミクロ編」N.グレゴリー マンキュー（著）、N.Gregory Mankiw（原著）、足立 英之（翻訳）、小川英治（翻訳）、石川 城太（翻訳）、地主 敏樹（翻訳）

「マンキュー経済学〈2〉マクロ編」N.グレゴリー マンキュー（著）、N.Gregory Mankiw（原著）、足立 英之（翻訳）、小川英治（翻訳）、中馬 宏之（翻訳）、石川 城太（翻訳）、地主敏樹（翻訳）

「ヤバい経済学 一悪ガキ教授が世の裏側を探検する」（単行本）スティーヴン・レヴィット（著）、スティーヴン・ダブナー（著）、望月 衛（翻訳）

【備考】

<02～07生>
 共通自由科目として、E生対象外
 E生は学科自由科目

科 目 名			
経済学基礎理論B			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	4単位	阿 部 秀二郎

【講義概要・学習目標】

専門的な学問内容を議論する準備として、経済学の基礎的な内容について、できるだけ身近な視点から興味を持ち考えていく習慣をつけてもらうことを目標にします。既存の経済学をいろいろな目で見ていこうと考えています。

【講義計画】

- 1：イントロダクション
- 2：導入
 - ・経済学の考え方
 経済学とは何かについて考える
 - ・経済学の歴史
 経済学はいつどのようにして生まれたのか、その後変わったのかについて考える
 - ・市場経済
 市場とはどんなものか、市場の役割について考える
 - ・商品・貨幣
 商品と貨幣について考える
- 3：展開
 - ・ミクロ経済学の基礎
 ミクロ経済学は何かについて考える
 - ・マクロ経済学の基礎
 マクロ経済学は何かについて考える
 - ・政治経済学の基礎
 政治経済学は何かについて考える
- 4：問題点
 - ・経済学の問題点
 経済学の問題について考える

【成績評価の方法】

出席点・レポート点・最終試験点の総合点で判断する。
 配分は初回に決定する。

【教科書】

岩田規久男『経済学を学ぶ』ちくま新書, 1994

【参考文献】

適宜指示します。

【備考】

<02～07生>
 共通自由科目として、E生対象外
 E生は学科自由科目

科 目 名			
経済学基礎理論B			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	4単位	大 澤 健

【講義概要・学習目標】

私たちが暮らしている社会は「市場経済」とか「資本主義」と言われています。ただ、「市場」とは何か、「貨幣」とは、「資本」とは、と聞かれるとなかなか答えるのは難しいものです。

この講義では、こうした経済の基本用語を解説しながら、私たちの社会がどのような特徴をもち、どのように動いているのかを講義します。

【講義計画】

<前期>「市場経済」と「貨幣」

1. 市場経済の諸特徴
 1. 市場とは何か
 2. 市場経済の原則
2. 貨幣と通貨制度
 1. 貨幣の諸機能
 2. 貨幣と通貨制度

<後期>

3. 資本とその運動
 1. 資本とは何か
 2. 絶対的剰余価値の生産と資本の特徴
 3. 相対的剰余価値の生産

【成績評価の方法】

秋学期の試験によって評価します。講義中に数回レポートを課して、これを加点として考慮する予定。つまり、レポートで減点されることはありませんが、出しておいた方が良いでしょう。

【教科書】

柴田信也編著「政治経済学の現地と展開」創風社

【参考文献】

カール・マルクス「資本論」

【備考】

われわれの社会、経済の基本を講義します。数学は使いませんので、まずは経済についての考え方に慣れることを目指してください。

<02～07生>

共通自由科目として、E生は対象外

E生は学科教育科目

科 目 名			
経済学基礎理論B			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	春学期集中	4単位	松 尾 純

【講義概要・学習目標】

この講義は、資本主義市場経済の最も基礎的な仕組みとそれを構成する基礎的な諸概念を理解することを目的としています。資本主義経済の基礎的な仕組みとその諸概念を理解するためには、社会を経済的側面だけから見るだけでは不十分です。この社会を構成している政治的・社会的・制度的な諸側面をも含めて総合的に分析しなければなりません。

この目的を果たすために、この講義では、「経済学の歴史」（重商主義、重農主義、古典派経済学、限界革命によって成立した新古典派経済学、ケインズ経済学等）と「経済の歴史」を概観します。この作業を通じて、資本主義経済を、政治的・社会的・制度的な諸側面から包括的に理解する方法を身につけることができるように配慮しつつ講義を進めていきます。

なお、本講義は、直接的には、本学カリキュラムの「経済原論I B」（＝マルクス経済学）の基礎を解説することを目的とします。

【講義計画】

1. 講義全体の概説。講義の進め方・成績評価の方法等のガイダンス（1回）。
2. 経済学とは何か。経済学の目的。（2回）。
3. 経済の歴史の概観。（3回）。
原始共同体－奴隷制－封建制－資本主義－社会主義社会
4. 経済学の歴史の概観。（8回程度）。
 1. 重商主義・重農主義
 2. アダム・スミスの経済学。
 3. D.リカードの経済学
 4. J・S・ミルの経済学
5. 経済学の基礎理論。（11回程度）。
 1. 限界革命と新古典派経済学
 2. ケインズ経済学
 3. マルクス経済学
 1. 商品
 2. 貨幣
 3. 資本とは何か。
 4. 剰余価値の生産。
 5. 賃金。
 6. 資本の蓄積。
 7. 資本の流通過程。
 8. 利潤・信用。
6. 現代の日本経済および国際経済を理論的に概観する。（3回）。
7. 講義の総括。（1回）。

【成績評価の方法】

成績評価は学期末のテストによって行なう。

成績不良者を救済するために、講義中に小テストを行う予定です。

【教科書】

テキストは指定しません。受講者数が適度な限度内であれば、出来る限り、講義資料等を配布するようにします。

【備考】

<02～07生>

共通自由科目として、E生対象外

E生は学科教育科目

科 目 名			
経済学史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	熊 谷 次 郎

【講義概要・学習目標】

経済学の歴史を大きく（1）重商主義（17世紀～18世紀末。富は主として外国貿易によって増加し、国内産業も外国貿易との関連でその意義が論じられた時代の思想と政策）、（2）古典派経済学（18世紀末～19世紀中葉。富は国内における生産が消費を上回ることによって生まれる資本蓄積によって増加するとする産業革命期以後の説）、（3）古典派批判者群像（先進国イギリスの経済学や資本主義経済の批判者、ならびに現代のミクロ経済学—市場と価格分析が中心—の先駆となった人々の思想と理論）、の順序で講義する。この順序で講義をするからといって、後から登場してきた学派や人物の意見の方がそれ以前の者と比べて劣っているということではない。もしそうだとするならば、歴史をさかのぼって勉強する必要はないだろう。人間や社会を対象とする人文科学や社会科学においては、古いから価値がないとか、新しいから優れているということにはならない。250年も昔のアダム・スミスの思想が、いまでもいろいろな分野の人々によって賛否の対象として論じられ、経済政策の指針ともなっているのは、この一例であろう。この講義ではさまざまな時代の経済学者たちがその時代の経済社会を観察し、分析し、政策提言をする、その思想の多様性・アイデアの豊穡さ、といったようなものを学んでほしいと思う。世界史や経済史・社会史・知性史とも関連をもつ講義であるから、そうした分野に関心のある諸君はそれを一層深めるために、そうした分野に無知あるいは苦手な諸君は、これを機会にそれを学ぶつもりで受講してほしい。

【講義計画】

以下の順序で講義する。

- I. 重商主義——外国貿易論を中心に、外国為替、経済循環における貨幣の役割、経済学と植民地や帝国の問題、などを取りあげる。
- II. 古典派経済学——経済学の父ともいわれている有名なアダム・スミスからはじめて、おもに19世紀イギリスの自由主義的経済学が対象。
- III. 古典派批判者群像——19世紀後半に登場したドイツの歴史学派、マルクスを中心とする資本主義批判者、現代ミクロ理論の先駆的存在である限界（効用）分析を展開した経済学者たち、を取りあげる。

【成績評価の方法】

数回の小テストと期末テストとを総合して評価。ただし期末テストの比重は当然大きい。

【教科書】

なし。毎回レジュメを配布する予定。

【備考】

<02～07生>

共通自由科目として、E生対象外

E生は学科教育科目

科 目 名			
経済学特講—経済学部で必要な中高数学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	三 原 裕 子

【講義概要・学習目標】

経済原論のテキストを開くと、テキストの至る所に数式が用いられており、経済原論を制覇するためには、多少の数学の知識が要求されることとなります。なぜ経済学部に入ったのに数学が必要なのか？と驚いている人も多い事と思います。しかし、経済学で用いる数学のほとんどは、日本語を記号を用いて数学に訳しているだけなのです。ところが、記号慣れしていないせいもあり、恐らくその与えられた数式を落ち着いて冷静に日本語に訳す前に、諦めている人も多いのではないのでしょうか。

経済学部で扱う数学は決して高度な数学ではなく、基本をきちんとおさえる事で、ある程度の応用は可能なものばかりです。しかしながら、基礎がきちんとできていなければ当然内容を理解することはおろか、問題も解くことはできません。

そこで、本講義では経済学部で用いる数学を基礎を徹底的に押さえた上で、最低限必要な数学を学ぶことを目的とします。その中で、中高数学の範囲を超えることがあります。ところが、基礎をきちんと押さえておけば恐れるに足りません。苦手な数学を克服するには、頭を動かす前に手を動かすしかありません。ですので、手を動かすことが大前提であることを念頭に入れながら受講して下さい。

【講義計画】

以下を中心に講義を進めていきます。

- ・数と式、方程式
- ・関数とグラフ
- ・微分法
- ・微分法的应用
- ・行列

【成績評価の方法】

講義中に行う小テストおよび学期末試験により総合的に評価します。

【教科書】

適宜レジュメを配布します。

科 目 名			
経済学特講－就職試験対策のための数学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	三 原 裕 子

【講義概要・学習目標】

総合適性検査（SPI）は、採用選考時における筆記試験として多くの企業で実施されています。もともとSPIは企業の人事選考等において、適材適所を把握するために利用されていましたが、現在では企業サイドが多数の応募者を絞り込むために適性検査が実施されるようになっていきます。

SPIは能力適性検査と性格適性検査とに分かれており、特に能力適性検査では、言語能力や数学の問題を中心とした論理的思考・数理能力等（非言語能力検査）が試されます。しかし、非言語能力検査では、思考、判断、作業の早さおよび正確さを測定するために行うもので、その出題内容としては、中学から高校レベルの問題が中心に出題されます。ところが、難易度は中学レベルといえども時間制限に比べると問題数が多いということから、少しでも早い段階でとにかくたくさん問題をこなして、慣れることが肝心です。

そこで、本講義では非言語能力の中でも特に数学を中心に、数多くの問題を解くことで就職試験に備えることを目的とします。

【講義計画】

就職試験に頻繁に出題される問題を若干解説した後、実際にほとんど問題を解いてもらいます。ただし、講義が進む中で講義の順序もしくは変更がある場合があります。

- ・数と式、方程式
- ・方程式とグラフ
- ・n進法
- ・順列、組合せ、確率
- ・推論
- ・集合

【成績評価の方法】

講義中に行う小テストおよび学期末試験により総合的に評価します。

出席は一切とりません。

【教科書】

適宜レジメを配布します。

科 目 名			
経済学特講-自動車産業論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	門 脇 轟 二

【講義概要・学習目標】

先ず、自動車産業200年の歴史を概観した上で、その中から日本と米国、日本と中国の自動車産業の関わりについて学ぶ事で、今後の自動車産業の課題を探る。日本の今後のあり方を考える。

【講義計画】

1. 自動車の発明から工業化の展開
2. 米国自動車産業の発展
3. 日本の自動車産業の発展
4. 米国の自動車産業と日本の関わり
5. 中国の自動車産業の発展
6. 中国の自動車産業と日本の関わり
7. 自動車産業の課題
8. 日本の今後のあり方

【成績評価の方法】

講義時間中のレポート及び学期末の試験による総合評価

【教科書】

必要に応じプリント、パワーポイントを使用

【参考文献】

- “自動車産業の将来” A. アルトシュラー、D. ルース
 “リーン生産方式が世界の自動車産業をこう変える”
 J. P. ウォマック、D. ルース、D. T. ジョーンズ
 “中国 自動車産業入門” 岩原托
 “グローバル競争時代の中国自動車産業” 丸川知雄、高山雄一
 “日本自動車産業の実力” 土屋勉男、大鹿隆
 “日本の自動車産業” 下川浩一

ETC

科 目 名			
経済学特講－日本経済入門			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	伊代田 光 彦

【講義概要・学習目標】

During the past half century the Japanese economy has seen rapid changes and remarkable progress. What kind of changes have we had in these years? In what sense can we say that we have had progress?

This lecture focuses on the following three points. First are the bright sides in the economy. Here we refer to the results of economic growth from various aspects: per capita income, spreading rate of durable goods, social security, etc.

Second are harmful side effects of the economic change. We here deal with environmental disruption, inflation, bubbles, stagnation, income distribution, etc.

Finally we deal with an ideal economy through an assessment of bright and gloomy sides of economic change during the past half century.

【講義計画】

1. Introduction
2. Historical Changes of the Japanese Economy
 - (1) Facts
 - (2) Reform and the beginning of strong growth
3. Rapid Economic Growth
 - (1) General background
 - (2) Positive effects
 - (3) Negative effects
 - (4) From the GNP-focused growthmanship to welfare-oriented society
4. Bubble Economy and its Consequence
 - (1) Bubble ages (burst, triggering role of politics)
 - (2) The process of bursting the bubble
 - (3) Its consequence (bad loan, outstanding government bonds)
5. Income and Assert
 - (1) Income and assert distribution
 - (2) Typical household and pension scheme
6. Concluding Remarks (the quality of life)

*This is a slow lecture which covers chapters 1, 2, 3, and 6.

【成績評価の方法】

Evaluation will be based on attendance (30%), and two papers (reports) (70%)

【教科書】

Handouts will be provided.
Short reading series will be provided.

【参考文献】

Ito, Takatoshi (1992). The Japanese Economy, chap. 3, Massachusetts Institute of Technology
Tsuru, Shigeto (1993). Japan's Capitalism, chap. 3, Cambridge University Press.
Itoh, Makoto (2000). Japanese Economy Reconsidered, chap. 4, Palgrave.

【備考】

英語による授業です

科 目 名			
経済学特講－日本の企業経営に学ぶ経済			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	春学期 秋学期	2単位	中 野 瑞 彦

【講義概要・学習目標】

The purpose of this course is to study business policies and business management of Japanese companies. Business cases of Japanese big companies such as Sony Corporation and Toyota Motor Corporation which are representative of Japanese major industries will be discussed. We will try to recognize their success factors as well as failure causes and evaluate their business strategies.

All lectures will be done in English. Fairly good level of English ability is required. Attendants are requested to understand key issues of business cases.

【講義計画】

Our aim is to analyze industrial structures and business management of particular companies in Japan. Tentative list of industries covering target companies are as follows:

1. Introduction (History of Japanese Business Industries)
2. Electronics Industry
3. Automobile Industry
4. Chemical Industry
5. Financial Industry
6. Information Technology Industry
7. Retail Sales Industry
8. Optical precision instrument Industry
9. Steel Industry

【成績評価の方法】

Monthly short exams (presumably three times) and final exam. All answers should be written in English.

【教科書】

Handouts will be provided.

【参考文献】

They will be indicated in the first lecture.

【備考】

英語による授業です

科 目 名			
経済学特講－日本の経済発展の歴史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	道 上 真 有

【講義概要・学習目標】

The theme is how Japanese economy has got economic growth from Meiji to 2000' s.

Particularly Meiji era' s economic policies in Japan and since post-war Japanese economic growth history have been learned by some Asian countries. Japan' s experience is very important for us to learn about economic developments. In despite that Japan no natural resource, why Japan got big progress and what good points Japan hold, we think in this lecture.

Now Japanese Economy is not getting big growth. Some says that we enter into the mature economy. Why doesn' t Japanese economy get big growth? What does Japan success and what does Japan fail? From now what should we reform? With the aid of economic history we will learn and consider about it.

【講義計画】

1. Introduction
2. Meiji era' s Economic Policy
3. Meiji era' s Trade
4. Meiji era' s Industrialization
5. Meiji era' s Finance and Monetary
6. Taisho era' s Economic Situation
7. Wartime Economy
8. Postwar Economic Policy
9. High-growth Period
10. Oil Shock
11. Bubble Economy in Japan
12. Small Government

Sometimes we use the video, newspaper, journals. And we need discussion in English!!

I aim at the bilateral lecture. So in the beginning every lecture we will introduce each other and each other countries or your interest in English.

Let' s get training English conversation with respect to economy!!

【成績評価の方法】

To submit the report in Japanese or English in the end of the term is your task in this lecture.

Whether you will pass and get good marks or fail this lecture, it depends on your report' s evaluation.

As I will give you a task in English, you must read and write your answer in your report.

You must write it in Japanese or English and submit me in the end.

【教科書】

None

【参考文献】

Some references are introduced in the lecture.

In Japanese :

Tojoukoku Nippon no Ayumi, by Kennichi Ohno, Yuuhikaku, 2005
 Shijou tai Kokka, by Daniel Yergin & Joseph Stanislav, translated by Yoichi Yamaoka, Nikkei BusinessJin Bunko, 2001

Ajiagata Keizai System, Yonoshke Hara, ChukoShinsho, 2000

【備考】

英語による授業です。

科 目 名			
経済学特講－ファッション産業論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	富 澤 修 身

【講義概要・学習目標】

消費や消費社会についての議論が盛んである。過剰生産と過剰消費が大きな問題となっている。この2つの過剰の組み合わせは、きわめて現代的課題である。しかも過剰消費が、個人レベルでの豊かさに結びつかないだけでなく、地球社会レベルでは解決の急がれる大問題を生み出している。生産し、消費すれば、豊かになれる、幸せになれるという大前提を再検討しなければならない状況に立たされているといえよう。経済学や経営学からの従来の研究は、生産中心でもよかったが、現代の問題状況は、もはやこれでは不十分である。生産と消費を同時に扱う必要がある。豊かさの欠如（感）という点では、人間の欲求を扱う必要がある。経済学に美の視点を取り入れる必要がある。それゆえ、大きく構えれば、「消費と美」の領域に分け入るために、ソーシャルサイエンスとヒューマンサイエンスの両視点を踏まえる必要がある。以上のような問題意識を踏まえて、ファッション産業論を講義する。

【講義計画】

1. 社会、衣服、ファッションビジネス
2. 資本主義社会における消費
3. 衣服の変化とファッション現象
4. 20世紀後半日本の消費生活と衣生活の変化
5. 世界繊維産業の見取り図
6. 3大繊維市場圏の形成とファッションビジネスの変容
7. 日本のファッション産業システム
8. ファッション産業システムの情報化
9. ファッションコミュニケーションの構造と消費者行動
10. 縫製基地としての中国と消費市場としての中国都市部
11. ニューヨーク市のファッションビジネスとアパレル産業
12. 都市生活のファッション化とファッションビジネス創造
13. 繊維アパレル産業と社会的責任
14. 終章

【成績評価の方法】

定期試験の成績とレポートの内容を総合して評価する。受講者数が少ない場合は、変更の可能性有り。

【教科書】

富澤修身著『ファッション産業論』（創風社、2003年）

【参考文献】

なし

科 目 名			
経済学特講－英語で学ぶ戦後日本経済			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	モグベル ザファル Moghbel Zafar

【講義概要・学習目標】

This is an introductory course on the Japanese economy focused on the domestic aspects of postwar development. The purpose is to familiarize economics majors and non-majors with the basic framework of the present-day Japanese economy and some salient domestic economic events and developments that have determined the course of the nation's postwar economic progress. Lectures will cover key issues in each of the six postwar decades and will close with a speculative vision of Japan in the year 2020 with a focus on what role Japan can be expected to play in the global economy of the 21st century. Lectures and class discussions will be conducted exclusively in English and tests will also be written in English. A high level of English comprehension is required.

【講義計画】

1. Overview of the Japanese economy today
 - * Statistical overview
 - * Dimensions of Japan's economic power and influence
 - * The unfolding demographic crisis
2. Phoenix risen from the ashes: rejoining the community of nations
3. Income-Doubling Plan and the era of accelerated economic growth
4. Limits to growth: environmental crisis and oil shocks
5. A season for Japan bashing and the logic of incremental adjustment
6. Plaza Accord and learning to live with "yen-daka"
7. Bubble economy: policy failure and irrational exuberance
8. Limits of Japan's postwar economic model and the lingering post-bubble crisis
9. Vision for Japan in 2020

【成績評価の方法】

Grades will be based on attendance, participation in class discussions, reports submitted and test results.

【教科書】

Handouts will be provided.

【備考】

英語による授業です

科 目 名			
経済学特講－英語で学ぶ日本経済と世界			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	モグベル ザファル Moghbel Zafar

【講義概要・学習目標】

This is an introductory course on the Japanese economy with a focus on the status of Japan in the global economy and its basic international economic strategies and achievements in the postwar period. The purpose of this course is to familiarize economics and non-economics majors with Japan's basic policy framework for its international economic relations and to examine the course of Japan's progress from postwar reconstruction to global economic superpower.

Lectures and class discussions will be conducted exclusively in English and tests will also be written in English. Therefore, a high level of English comprehension is required.

【講義計画】

1. The Japanese economy in the world economy today
 - * Statistical overview
 - * Japan's basic path of development in the global economy
 - * Challenges of globalization
2. Foreign trade: policies, strategies, achievements
3. Japan's international economic negotiations: 1985-1993
4. Balance of payments: secular trends, recent developments
5. Foreign investment: policies, strategies, achievements

【成績評価の方法】

Grades will be based on attendance, participation in class discussion, reports submitted and test results.

【教科書】

Handouts will be provided.

【備考】

英語による授業です

科 目 名			
経済学特講－経済学検定試験対策講座A			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	三 原 裕 子

【講義概要・学習目標】

経済学検定試験（ERE）は、全国規模で経済学の数理的および理論的な基礎知識の習得レベルを測る検定です。また、EREは公務員、企業等の人事採用における参考資料としても使われるようになっており、経済学部生を始め社会人の方も多く受験されています。EREでは100問中、ミクロ経済学とマクロ経済学が各25問ずつ出題され、この2科目で全体の半分を占めています。出題方式は四択一式ですが、微分等を用いて計算を解く必要のある問題が大変多く出題されています。

そこで本講義では、過去において実際にEREで出題された問題を解いてもらうことにより、問題を解く力を養うことを目的とします。また、ERE対策のための講義ですが、内容は皆さんが実際に経済原論で受講する内容であり、その意味でもミクロ経済学およびマクロ経済学の予習および復習を兼ねて受講することも可能です。

しかし、半年間でミクロ経済学を基礎から全てフォローすることはできませんので、必要最低限の復習と予習は行うようにして下さい。

【講義計画】

受講生の数や講義を進めていく中で、若干の変更があると思いますが、基本的な講義は以下の通りです。

1. 経済数学
2. ミクロ経済学の復習
3. 問題演習および解説

【成績評価の方法】

- ・出席はとりません
- ・授業中に行う小テストと学期末試験を総合的に評価します

【教科書】

適宜レジメを配布します。

科 目 名			
経済学特講－経済学検定試験対策講座B			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	三 原 裕 子

【講義概要・学習目標】

経済学検定試験対策講座Aに引き続き、本講義ではマクロ経済学を中心に経済学検定試験（ERE）において出題された問題を解く事で、マクロ経済学の問題を解く力をつけていく事を目的とします。ミクロ経済学と同様に、やはりマクロ経済学の問題を解くにあたり微分等の数学を必要とします。

半年間という短い期間で、より多くの問題を解き、さらに解く力を体得するためには皆さん自身で考えながら問題を解いてもらうことが一番です。よって、講義中に必要に応じてマクロ経済学の概略を述べた上で問題を実際に解いてもらいますが、必要最低限の予習と復習は行うようにして下さい。

【講義計画】

受講生の数や講義を進めていく中で、若干の変更があると思いますが、基本的な講義は以下の通りです。

1. 経済数学
2. マクロ経済学の復習
3. 問題演習および解説

【成績評価の方法】

授業中に行う小テストと学期末試験を総合的に評価します。

【教科書】

適宜レジメを配布します。

科 目 名			
経済学特講－現代日本経済の統計分析			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	荒 木 英 一

【講義概要・学習目標】

This is an introductory course of statistical analyses with a special focus on the current Japanese economy. The first three classes will be dedicated to elementary lectures of econometrics. Then, we will choose some topics on the Japanese economy, for which I will give you a general explanation and you will carry out an econometric analysis according to my guidance. The purpose of this course is to cultivate your understanding of the Japanese economy and to provide you with some general analytical techniques through the practice of statistical analyses. Lectures will be conducted in English. A fairly good level of English ability is required.

【講義計画】

1. An introduction to descriptive statistics
2. An introduction to regression analysis
3. An introduction to statistical inferences
4. An overview of the current Japanese economy
5. Looking at the projection of Japan's trade surpluses based on past trends
6. The issue of unemployment especially among the young people
7. Changes in employment practice that affect Japanese employers and employees
8. Changes in the relationship between large and small companies
9. The lost decade -- the impact of bad debts on the Japanese economy and the lessons that have been learnt

【成績評価の方法】

Attendance (40%) and the final examination (60%) .

【教科書】

Handouts will be provided.

【備考】

英語による授業です

科 目 名			
経済学特講－世界の経済発展戦略			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	道 上 真 有

【講義概要・学習目標】

The theme is "How we can learn about the strategy of economic growth from "The End of Poverty" by Jeffrey Sachs" . The thinking points in this lecture are the follows. ; How did we, man, achieve the economic growth? Why some countries are poor and others are rich? How did some countries overcome economic recession or crisis? Of course, in these points are also included in Japan. With the aid of the book written by Jeffrey Sachs, we will consider about the above points. He is very famous economist and published the book "The End of Poverty" in 2005 . He has been engaged in economic policy drafting of various countries so far. For us his experiences are very important, if you are interested in why it is born a disparity in economic power all around the world. In addition to it, if we think how our country should reform, we need to imagine if we were the minister who must draft economic policy. Then without some wisdom we couldn't solve that task. For the purpose, in this lecture we will learn the history of economic growth strategy all around the world.

【講義計画】

1. Introduction
2. Japanese Strategy of Economic Growth from 1945 to 1998
3. Bolivia's fight against economic crisis
4. Poland's Jump to Market
5. Russia's Transformation to Market
6. China's catching up
7. India's Market Reforms
8. Investments needed to developing countries
9. Tasks for the future

Sometimes we use the video, newspaper, journals. And we need discussion in English!!

I aim at the bilateral lecture. So in the beginning every lecture we will introduce each other and each other countries or your interest in English.

Let's get training English conversation with respect to economy!!

【成績評価の方法】

To submit the report in Japanese or English in the end of the term is your task in this lecture.

Whether you will pass and get good marks or fail this lecture, it depends on your report's evaluation.

As I will give you a task in English, you must read and write your answer in your report.

You must write it in Japanese or English and submit me in the end.

【教科書】

None

【参考文献】

Some references are introduced in the lecture.

In English :

The End of Poverty: How we can make it happen in our lifetime, Jeffrey Sachs, PENGUIN BOOKS,2005 (in translated by Chikara Suzuki & Kuniko Nonaka, Hinkon no Shuuen, Hayakawa Shobo, 2006)

(Other edition has been published. But all the contents are the same. The End of Poverty: Economic Possibilities for Our Time, Jeffrey Sachs, PENGUIN BOOKS,2005)

In Japanese :

Shijou tai Kokka, by Daniel Yergin & Joseph Stanislaw, translated by Yoichi Yamaoka, Nikkei BusinessJin Bunko, 2001

【備考】

英語による授業です。

科 目 名			
経済学特別講義－戦後日本経済の光と影			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	伊代田 光 彦

【講義概要・学習目標】

During the past half century the Japanese economy has seen rapid changes and remarkable progress. What kind of changes have we had in these years? In what sense can we say that we have had progress?

This lecture focuses on the following three points. First are the bright sides in the economy. Here we refer to the results of economic growth from various aspects: per capita income, spreading rate of durable goods, social security, etc.

Second are harmful side effects of the economic change. We here deal with environmental disruption, inflation, bubbles, stagnation, income distribution, etc.

Finally we deal with an ideal economy through an assessment of bright and gloomy sides of economic change during the past half century.

【講義計画】

1. Introduction
 2. Historical Changes of the Japanese Economy
 - (1) Facts
 - (2) Reform and the beginning of strong growth
 3. Rapid Economic Growth
 - (1) General background
 - (2) Positive effects
 - (3) Negative effects
 - (4) From the GNP-focused growthmanship to welfare-oriented society
 4. Bubble Economy and its Consequence
 - (1) Bubble ages (burst, triggering role of politics)
 - (2) The process of bursting the bubble
 - (3) Its consequence (bad loan, outstanding government bonds)
 5. Income and Assent
 - (1) Income and assent distribution
 - (2) Typical household and pension scheme
 6. Concluding Remarks (the quality of life)
- *This lecture covers whole chapters but focuses chapters 4, and 5.

【成績評価の方法】

Evaluation will be based on attendance (30%), and two papers (reports) (70%)

【教科書】

Handouts will be provided.
Short reading series will be provided.

【参考文献】

Ito, Takatoshi (1992). The Japanese Economy, chap. 3, Massachusetts Institute of Technology
Tsuru, Shigeto (1993). Japan's Capitalism, chap. 3, Cambridge University Press.
Itoh, Makoto (2000). Japanese Economy Reconsidered, chap. 4, Palgrave.

【備考】

英語による授業です

科 目 名			
経済学入門〔編入生用〕			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	鈴木 健

【講義概要・学習目標】

本講義の目標は、第一に、我々の生活する舞台である資本主義経済の仕組みについて基本的な理解を獲得し、第二に、その理解にもとづいて現代経済に特徴的な経済現象の意味について考える訓練を行なうことにある。

第一の目標に関わって言えば、資本主義経済は市場経済を基礎として成立したが、利潤獲得を目的とするがゆえに生産は無際限に拡張する傾向をもつこと、にも関わらず、市場が受容する能力には限界があり、それゆえに資本主義経済は過剰生産とそれを調整する恐慌を回避することはできない経済の仕組みであること、このことが中心的なテーマとなる。第二の目標に関して言うと、90年代長期不況後の日本経済をとりあげ、そこに特徴的と考えられるいくつかの経済現象を取り出し、それについて考えることが中心的なテーマとなる。

【講義計画】

第1回の講義の際に、授業計画全体について解説する。

【成績評価の方法】

期間中に実施する10回の小テストの総得点によって評価する。

【教科書】

岸本重陳『経済学100の話』岩波書店

【参考文献】

その都度紹介する。

科 目 名			
経済学のための数学入門			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	藤 間 真

【講義概要・学習目標】

経済学部は文系だとされています。しかし、経済学を理解するには数学の素養があった方がはるかに効果的に理解できます。しかも、高校までの数学とは少し毛色の違った数学ですし、入試対策のテクニック等は不要ですから、今まで苦手に思ってきた諸君でも、再スタートだと思って努力すれば経済学部で要求される数学の基礎は理解できるはずです。

この講義の目的はそのような、経済学の視点から小中高の数学を見直し、整理すると同時に更なる高みを目指すことにあります。

小中高の数学の知識をも復習しながら進む予定ですから小中高で数学を苦手にした諸君でもそのことで恐れることはありません。しかし、受験テクニックは扱いませんし、高校までの数学とは違う視点での数学を講義しますので、自分の頭を使い手を動かして考えることも必要になってきます。

なお、2006年秋に発覚した未履修問題等を受けて、2006年度以前の同名の科目に若干の変更を予定しています。

【講義計画】

★オリエンテーション

★中学数学の復習

- ・数と式の復習
- ・一次方程式
- ・二次方程式
- ・連立方程式

★関数と微分

- ・いろいろな関数
- ・微分の概念
- ・いろいろな関数の微分
- ・微分的应用
- ・多変数関数

★行列とベクトル

- ・表と行列
- ・ベクトル
- ・連立方程式への応用
- ・産業連関表への応用

【成績評価の方法】

学年末試験の成績を中心に、平常成績を考慮して評価します。詳細はオリエンテーション時に説明します。

【教科書】

竹之内 脩（著）経済・経営系数学概説 新世社

【参考文献】

数学入門. 遠山啓著. 岩波書店、岩波新書
 大道を行く高校数学 代数・幾何編、橘 謙他著、現代数学社
 大道を行く高校数学 解析編、安藤洋美著、現代数学社
 大道を行く高校数学 統計数学編、安藤洋美著、現代数学社
 大学新入生のための数学入門、石村園子著、共立出版
 やさしく学べる基礎数学 線形代数・微分積分、石村園子著、共立出版

その他は進行状況に応じて指示します。

【備考】

受講生への連絡は大学のメールを用いるので最低限の操作はできるようにお願いいたします。（新学期の情報センターガイダンスで扱う程度の操作で十分です。）

科 目 名			
経済原論 I A—1			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	4単位	田 中 悟

【講義概要・学習目標】

ミクロ経済学の基礎的な理論の概説を通じて、家計・企業といった経済主体の意思決定や市場メカニズムの機能に関する経済理論について学び、こうした理論が現実にもどのように応用できるかについて考える。講義は単に理論の概説だけでなく、身の回りの様々な経済現象が経済理論によっていかにとらえられるかという点を意識しながら進められる。これを通じて様々な経済現象に対する「経済学的な見方」を養うことが、本講義の目的となる。

【講義計画】

講義はおおむね以下の順序で行われる予定である。

- 序章 インTRODクシヨン：ミクロ経済学とは？
- 第1章 市場メカニズムとは？
- 第2章 家計・企業の行動と需要・供給概念
- 第3章 市場メカニズムの社会的評価
- 第4章 私的独占の効果
- 第5章 経済主体の相互依存関係とその効果
- 第6章 市場の失敗と公共政策の役割
- 第7章 不確実性と情報の経済学

【成績評価の方法】

授業中に課す数回の宿題ないしは小テスト（20％）と講義末に行われる定期試験（80％）の結果を総合評価する。

【教科書】

伊藤元重（2003）『ミクロ経済学（第2版）』日本評論社。

【参考文献】

1. 伊藤元重『ビジネス・エコノミクス』（日本経済新聞社）
2. マンキュー著・足立/小川/中馬/石川/地主/柳川訳『マンキュー経済学（1）ミクロ編』（東洋経済新報社）
3. ステイグリッツ著・薮下/秋山/金子/木立/清野訳『入門経済学』『ミクロ経済学』（東洋経済新報社）
4. ヴァリアン著・佐藤訳『入門ミクロ経済学』（勁草書房）

科 目 名			
経済原論 I A—1			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	春学期集中	4単位	竹 歳 一 紀

【講義概要・学習目標】

ミクロ経済学の基礎理論について講義する。

- ①家計（消費者）・企業（生産者）といった経済主体の行動がどのようにモデル化されるか
- ②それら経済主体の消費や生産が、市場価格を通じてどのように決定されるか
- ③消費や生産が市場での価格メカニズムを通じて決定されることがなぜ望ましいといえるか

といったミクロ経済学の基本を理解することが目標である。

ミクロ経済学の進んだ学習には数学的知識が必要となるが、本講義では、数式の使用は簡単なものにとどめ、主に図を用いて説明する。

なお、ミクロ経済学の学習は基礎からの積み上げになるので、講義に出席し、内容を確実にフォローしていくことが望まれる。

【講義計画】

1. ミクロ経済学の考え方
2. 需要と供給
3. 消費者行動と需要曲線
4. 生産者行動と供給曲線
5. 市場均衡と経済厚生
6. 独占の理論
7. 派生需要と生産要素市場
8. 不確実性と情報

【成績評価の方法】

中間試験および学期末試験の成績による。
詳細は初回に説明する。

【教科書】

特に指定しないが、参考書として下記のようなテキストをあげておく。

【参考文献】

荒井一博『ファンダメンタル ミクロ経済学』（中央経済社）
石川秀樹『経済学入門Ⅱ ミクロ編』（中央経済社）
西村和雄『現代経済学入門 ミクロ経済学』（岩波書店）
スティグリッツ『入門経済学』・『ミクロ経済学』（東洋経済新報社）

科 目 名			
経済原論 I A—1			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	秋学期集中	4単位	矢 根 眞 二

【講義概要・学習目標】

基本的なミクロモデルを学習します。入門用のミクロ経済学の教科書に沿って授業を進めますが、その教科書の学習項目を半分程度に絞り込み、教科書やサイトのProblem Setを自分で解けるようになることを目指し、授業中のクイズや試験もその理解度チェックに重点を置きます。

ですから講義予定に対応する教科書の部分を事前に読み、実際に練習問題を自分で解いてみるというコツコツとした学習力が大切になります。特に連立方程式や曲線の勾配値といった中高数学に自信のない方は、サイトに【Math-1】等の補助教材を用意しておきましたから、その復習から始めた方が効率的に学習できると思います。

【講義計画】

●資料・詳細は開講時の教員サイトを参照して下さい。

<http://rio.andrew.ac.jp/~yane/under/micr/>

-----第1部 Review ～入門経済学の復習～-----

- R 1 単位の取り方
- R 2 学習の経済学 (【Math- 2】)
- R 3 ミクロ経済学 (【Math- 1】)
- R 4 完全競争市場の基本モデルと比較静学 (教科書1章)
- R 5 完全競争市場の資源配分の効率性 (教科書4章)

-----第2部 Firm～競争企業と独占企業-----

- F 1 逆S字型費用曲線と限界・平均費用 (【Math- 3】)
- F 3 競争企業の利潤最大化 (教科書3章)
- F 5 独占企業と独占市場 (教科書9章)
- F 7 費用逓減産業とピグー税 (教科書11章)

-----第3部 Strategies ～戦略と情報～-----

- S 1 囚人のジレンマと公共財 (教科書10-11章)
- S 2 同時ゲームと逐次ゲーム (教科書11章)
- S 3 リスクと保険・混合戦略 (教科書12章)
- S 4 逆選択とモラルハザード (教科書13章)

【成績評価の方法】

- 1 授業中のクイズ
 - 2 本試験 (100点)
 - 3 その他講義中の質問等
- 以上を総合し60点以上を合格とする予定

【教科書】

●伊藤元重 (2003)『ミクロ経済学』日本評論社

特別な予備知識がなくとも読める入門レベルの教科書ですから、これだけは事前に読み練習問題をこなしておくのが最も効率的な学習法です。

【参考文献】

●三土修平 (2005)『はじめてのミクロ経済学』日本評論社

掲載されている過去の公務員試験問題のうち、本講義の学習内容と密接に関わる問題は講義のProblem Setの中で取り上げ解説していますから、さらに詳しく学習したい方は参考にして下さい。

科 目 名			
経済原論 I A-2			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	4単位	森 誠

【講義概要・学習目標】

近代経済学のマクロ経済学を講義します。
 まず、新聞等によく目にする国民所得統計を紹介しします。この国民所得統計自体は恒等式といった会計的性質を持っていますが、経済学としては何が原因で失業が生じているのか、という因果関係を表す決定式を考えることが重要です。そこで、雇用量、GDPの決定についてのマクロ経済学を学習します。中心となるのは、ケインズ流のマクロ経済学の標準的解釈ですが、適宜、新古典派流のマクロ経済学等も紹介したいと思っています。
 近代経済学では多少の数学が使われていますが、それらについても講義で簡単に解説しますので、前もって数学を知らなくとも理解はできると思います。そして、慣れるために、また、曖昧さを排除するためにほぼ毎回練習問題を解きます。まじめに勉強すれば最初はチンプンカンプンでも1年後にはずいぶん慣れているはずです。

【講義計画】

- 1、GDPと3面等価の原則
- 2、実質と名目
- 3、ISバランス-貿易黒字と貯蓄-
- 4、GDP決定論の基礎
- 5、均衡予算定理
- 6、IS曲線
- 7、LM曲線
- 8、財政政策と金融政策の効果
- 9、リカード命題

【成績評価の方法】

年度末試験

【教科書】

特になし

【参考文献】

・工藤・井上・金谷『マクロ経済学』東洋経済。惣宇利紀男、服部容教編『21世紀の経済政策』日本評論社。吉川洋『マクロ経済学』岩波、ケインズ派の立場によるマクロ経済学。
 その他、公務員試験等を目指している人は、講義を聴くだけでは十分ではありません。簡単な問題集を入手して各自で解く必要があります。

科 目 名			
経済原論 I A-2			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	春学期集中	4単位	伊代田 光彦

【講義概要・学習目標】

近代経済学の立場からマクロ経済学の講義を行う。
 経済成長というのはどういうことなのだろうか。国全体の所得はどのようにして決定されるのだろうか。失業はなぜ生じるのだろうか。景気変動はなぜ起こるのだろうか。内外価格差はなぜ存在するのだろうか。このような問題に答えるためには、経済全体の仕組みを明らかにし、解決の処方箋を与えることのできる理論が必要となる。このための基礎理論がマクロ経済学である。従ってマクロ経済理論というのは、いわば経済全体の大きな眺めを扱う経済理論の分野である。
 もう少し具体的な内容は講義計画の中に列挙されている。講義においては、理論をできるだけ現実の問題に関連づけ、具体例を上げながらゆっくり進めていくつもりである。

【講義計画】

各章3～4回

- 1 マクロ経済学への導入
- 2 国民所得の概念
- 3 国民所得の決定とその応用
- 4 貨幣分析
- 5 国民所得の変動（変動と成長）
- 6 マクロ経済政策（総需要管理政策）

* 時間に余裕があれば、7章（テキスト）以降についても講義する。

【成績評価の方法】

学期末試験（60%）、レポート（2回、30%）および出席（2-3回、10%）を総合して評価する。

【教科書】

伊代田光彦著『マクロ経済学（第2版）』（法律文化社、2006年）

【参考文献】

サムエルソン（著）『経済学（第13版上）』（岩波書店、1992年）

科 目 名			
経済原論 I A—2			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	秋学期集中	4単位	中 村 勝 之

【講義概要・学習目標】

経済学の究極の目的は、国や地域など、ある基準で区切られた経済単位における振舞（パフォーマンス）を眺めて行くものである。その際マクロ経済学は、経済全体の構成諸要素を記述する「集計関数」を前提にする。その理由は次の例を考えると分かりやすい。

例えば、あなたのご両親がリストラの危機に直面しているとする。このときあなたはアルバイトをして家計を支えようとするだろうし、同時に支出を極力控えようとするだろう。この「支出を手控える」という行為が大多数の消費者が同時に行えば、経済全体の消費需要が冷え込む。それが企業収益の悪化を引き起こすので、企業側の対応とすれば、よりリストラを強化する方向にシフトするだろう。これは直ちにご両親のリストラの可能性が拡大したことを意味する。つまりリストラの可能性に対する対応が、却ってより厳しいリストラの危機に直面してしまうのである。これがいわゆる「合成の誤謬」である。

そこでこの講義はマクロ経済学の基礎に関して、「マクロ経済政策の有効性」という観点から大胆かつ平易に(?)解説していく。なお、必要に応じて数学を利用して行くので、この点だけは覚悟の上で受講に臨んで頂きたい。

【講義計画】

※以下の順序で講義をしていく。

- ①ガイダンス:学習目標と成績評価を提示
- ②経済数学「超」入門
- ③GDPとは?
- ④主要関数について
- ⑤45度線分析とIS-LM分析
- ⑥労働市場とAD-AS分析
- ⑦インフレ予想と失業
- ⑧経済成長理論

【成績評価の方法】

- ①講義時間中に行われる「小テスト」(5回程度実施)
- ②講義期間中頃に行われる「中間テスト」
- ③最終講義時に行われる「期末テスト」

※上記①～③の獲得点数をもとに、一定のルールにしたがって評点を計算し、必要であれば加点措置を行う。なおこの加点措置に、いわゆる「出席点」は入らない。

【教科書】

使用しない。適宜資料(レジュメ)を配付する。

【参考文献】

必要に応じて指示する。

【備考】

試験情報などはホームページ(<http://rio.andrew.ac.jp/~nakamura>)を参照すること。

科 目 名			
経済原論 I B			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期集中	4単位	滝 田 和 夫

【講義概要・学習目標】

マルクスの経済学について講義する。ここでは『資本論』全三巻の基礎概念や基本的論理構造の解説と問題点の検討を中心に、マルクスの経済学の体系的理解を目標として講義を進める。それと同時に、マルクスの経済学と古典派経済学との関わりや、現代マルクス経済学の到達点、さらにはいわゆる近代経済学との相違もできるだけ明らかにしていきたい。使用テキストは平明に書かれているので、事前に一読しておく講義が理解し易いであろう。

【講義計画】

- I. 経済学の対象と方法
- II. 市場経済
 1. 商品経済
 2. 貨幣経済
- III. 資本とその増殖
 1. 資本の増殖
 2. 労働力という商品
 3. 資本の生産過程
- IV. 価格と利潤
 1. 個別的価値と市場価値
 2. 生産価格、一般的利潤率の形成
- V. 資本の再生産と蓄積
 1. 資本の蓄積過程
 2. 社会的総資本の再生産過程
 3. 資本蓄積と利潤率の傾向的低下法則

【成績評価の方法】

試験の成績による。試験の回数や出席をとるかどうかは受講者数をみて決める。

【教科書】

平井・北川・滝田(共著)『経済原論』有斐閣 (ISBN 4-641-05905-5)

【参考文献】

置塩信雄(著)『マルクス経済学』筑摩書房
森嶋通夫(著)高須賀義博(訳)『マルクスの経済学』(『森嶋通夫著作集7』)岩波書店

科 目 名			
経済原論 I B			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期集中	4単位	松 尾 純

【講義概要・学習目標】

「現存社会主義」の崩壊とその後の資本主義経済への「復活」、中国共産党の推進する「市場社会主義」建設。これらの事態は、マルクスが構想した社会主義社会とはどのようなシステムであったのか、そして、それは人類が求める理想社会を実現するものであるのか、という問題を我々に投げかけている。

他方、ソ連・東欧の「現存社会主義」の崩壊によって一旦「勝利」したと見られた資本主義も、21世紀に入ってますますその行方は不透明となりつつあり、現存の資本主義社会は人間に幸福をもたらしているとは必ずしもいえない状況が続いている。

本講義では、このような問題状況を解決する糸口を得るために、百数十年前に資本主義批判と社会主義の実現を目指して誕生したマルクス経済学の新世紀における”再構築”を目指す。そのため、従来科書的に理解されてきたマルクス経済学の諸命題について根本的な再検討を加えつつ、講義を進めていく。

【講義計画】

[講義計画]

(前半) (5回程度)

1. 講義全体の概説。講義の進め方・成績評価の方法等のガイダンス。
2. マルクス・エンゲルスのいわゆる「唯物史観」とは何か。
3. 労働疎外論とは何か。
4. マルクス・エンゲルス共著の『共産党宣言』には何が書かれているか。
5. マルクスが描いた社会主義像とソ連・東欧の「社会主義」の歴史。

(後半) (各項目1回で進めていって20回程度)

- | | |
|----------------|-------------|
| 1. 経済学の対象と方法。 | 11. 資本蓄積論Ⅱ。 |
| 2. 商品論Ⅰ。 | 12. 資本の流過程。 |
| 3. 商品論Ⅱ。 | 13. 利潤論Ⅰ。 |
| 4. 貨幣論Ⅰ。 | 14. 利潤論Ⅱ。 |
| 5. 貨幣論Ⅱ。 | 15. 商業資本論。 |
| 6. 貨幣の資本への転化論。 | 16. 信用論Ⅰ |
| 7. 資本の本源的蓄積。 | 17. 信用論Ⅱ。 |
| 8. 剰余価値論Ⅰ。 | 18. 地代論。 |
| 9. 剰余価値論Ⅱ。 | 19. 講義の総括。 |
| 10. 資本蓄積論Ⅰ。 | |

【成績評価の方法】

成績の評価は、基本的に学期末試験の結果にもとづいて行う。成績不良者を救済するために、講義中に小テストを行う予定です。出席率は一切考慮しない。

【教科書】

講義概要の趣旨から理解されるように、市販の教科書等は使用しない。代わりに、可能であれば、講義要旨・参考資料等を配布するよう努力する。

【参考文献】

参考書は授業時間中に適宜お知らせします。

科 目 名			
経済原論Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	伊代田 光 彦

【講義概要・学習目標】

次の2つの問題に焦点をあてて講義を進める。

近年、所得・資産分配の格差に関する関心が高まっている。停滞経済の下で 所得の伸びが期待できず、しかも高齢化社会が迫りくる状況の中では、強い関心だけでは済まされない問題である。分配に関する問題を理論、日本の実態、政策の3つの側面から総合的に明らかにする。

1970年代のスタグフレーションの中で、ケインズ経済学の有効性が疑問視されるようになり、マクロ経済理論は混迷の時代を迎えた。この中から誕生した反ケインズ派経済学について概説するとともに、その評価を行う。一方、その後誕生した新ケインズ派理論、新古典派の新しい理論展開についても時間の許すかぎり概説し、その評価を行う。

必要に応じて基礎的な理論の説明も行い、できる限りゆっくり講義を進めていく。板書により分かり易い講義を行うつもりであるが、受講は二回生以上が望ましい。

【講義計画】

I 所得分配 (理論、実態および政策)

- 1 はじめに
- 2 所得分配の基礎理論
- 3 所得分配率
- 4 人的分配の分析概念
- 5 所得・資産分配の実態
- 6 分配に関する政策の現状と問題点

II マクロ経済学の潮流

- 1 ケインズ経済学
国民所得の決定とその応用、貨幣分析、ケインズ政策
- 2 反ケインズ派経済学
フリードマンの新貨幣数量説、合理的期待形成学派、供給重視の経済学
* 時間に余裕があれば、その後のマクロ経済学の展開 (新ケインズ派理論、新古典派リアル・ビジネスサイクル理論) について講義する。

【成績評価の方法】

学期末試験 (60%)、レポート (2回、30%) および出席 (2-3回、10%) を総合して評価する。

【教科書】

伊代田光彦著『マクロ経済学 (第2版)』(法律文化社、2006年)

【参考文献】

必要に応じて講義の中で指示する。

科 目 名			
経済情報処理演習 I a			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	秋学期	2単位	麻 生 憲 一

【講義概要・学習目標】

あらかじめ用意されたアプリケーション機能を受動的に利用するだけでなく、各自に適した形でコンピュータを使いこなす第一歩として、VBA (Visual Basic For Application) をもちいたプログラム作成演習を行う。

表計算ソフトの初歩操作を既に体験済みの受講生を対象とした。

【講義計画】

1. 表計算ソフト基本操作のまとめ
2. マクロの児童記録機能
3. プログラミング操作の基本、アプリケーションとプログラミングの相違点
4. プログラミングの発想とアルゴリズム・フローチャート
5. 複利計算プログラムの作成
6. データ型の設定
7. データ整列プログラム
8. データ探索プログラム
9. 計算とプログラムの効率化
10. 金融計算プログラムの作成
11. 計測と制御
12. C言語やJAVAなど他のプログラミング言語の利用法

【成績評価の方法】

出席、レポート、講義課題の達成度に応じて評価する。

【教科書】

使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献】

授業中、その都度指示をする。

科 目 名			
経済情報処理演習 I a			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	秋学期	2単位	井 田 憲 計

【講義概要・学習目標】

あらかじめ用意されたアプリケーション機能を受動的に利用するだけでなく、各自に適した形でコンピュータを使いこなす第一歩として、VBA (Visual Basic For Application) をもちいたプログラム作成演習を行う。

表計算ソフトの初歩操作を既に体験済みの受講生を対象とした。

【講義計画】

1. 表計算ソフト基本操作のまとめ
2. マクロの児童記録機能
3. プログラミング操作の基本、アプリケーションとプログラミングの相違点
4. プログラミングの発想とアルゴリズム・フローチャート
5. 複利計算プログラムの作成
6. データ型の設定
7. データ整列プログラム
8. データ探索プログラム
9. 計算とプログラムの効率化
10. 金融計算プログラムの作成
11. 計測と制御
12. C言語やJAVAなど他のプログラミング言語の利用法

【成績評価の方法】

出席、講義時間中の課題提出（不定期）、講義時間外の間レポート（1回程度）、期末課題（最終講義時）を総合して評価を行う。

【教科書】

特に指定しない。講義用のWebサイト（ホームページ）を利用し、必要に応じてプリント等を配布する。

【参考文献】

適宜指示する。

科 目 名			
経済情報処理演習 I a			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
04	秋学期	2単位	義 永 忠 一

【講義概要・学習目標】

あらかじめ用意されたアプリケーション機能を受動的に利用するだけでなく、各自に適した形でコンピュータを使いこなす第一歩として、VBA（ Visual Basic for Application ）をもちいたプログラム作成演習を行う。表計算ソフトの初歩操作を既に体験済みの受講生を対象としたい。

【講義計画】

1. 表計算ソフト基本操作のまとめ
2. マクロの自動記録機能
3. プログラミング操作の基本、アプリケーションとプログラミングの相違点
4. プログラミングの発想とアルゴリズム・フローチャート
5. 複利計算プログラムの作成
6. データ型の設定
7. データ整列プログラム
8. データ探索プログラム
9. 計算とプログラムの効率化
10. 金融計算プログラムの作成
11. 計測と制御
12. C言語やJAVAなど他のプログラミング言語の利用法

【成績評価の方法】

講義中における課題作成を中心に評価します。
講義期間中に、小テストを数回実施します。

【教科書】

プリントを配布します。

【参考文献】

その都度、指示します。

科 目 名			
経済情報処理演習 I a			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
05	秋学期	2単位	村 松 郁 夫

【講義概要・学習目標】

あらかじめ用意されたアプリケーション機能を受動的に利用するだけでなく、各自に適した形でコンピュータを使いこなす第一歩として、VBA（ Visual Basic For Application ）をもちいたプログラム作成演習を行う。

表計算ソフトの初歩操作を既に体験済みの受講生を対象とした。

【講義計画】

1. 表計算ソフト基本操作のまとめ
2. マクロの児童記録機能
3. プログラミング操作の基本、アプリケーションとプログラミングの相違点
4. プログラミングの発想とアルゴリズム・フローチャート
5. 複利計算プログラムの作成
6. データ型の設定
7. データ整列プログラム
8. データ探索プログラム
9. 計算とプログラムの効率化
10. 金融計算プログラムの作成
11. 計測と制御
12. C言語やJAVAなど他のプログラミング言語の利用法

【成績評価の方法】

実習課題の提出状況、内容により評価します。

か
行

科 目 名			
経済情報処理演習 I b			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	春学期	2単位	麻 生 憲 一

【講義概要・学習目標】

経済情報や経済統計データの入手方法・検索方法について演習を行い、さらにそれらの利活用について演習を行う。

インターネットに点在する経済情報資源・経済統計データの詳解、検索方法とその利用方法に関する解説と演習、経済統計の入手方法と加工方法に関する解説と演習などがテーマとなる。

【講義計画】

1. 新聞社・通信社の経済情報へのアクセス
2. 行政機関の経済情報へのアクセス
3. 統計資料・調査レポートへのアクセス
4. 地域と企業活動に関する経済情報源の検索
5. 経済統計データとは
6. 経済統計データの検索と入手
7. 経済統計データの整理・グラフ化
8. 記述統計手法（平均・分散・相関・回帰）入門
9. 国民経済計算データによる日本経済の分析

【成績評価の方法】

出席、レポート、講義課題の達成度に応じて評価する。

【教科書】

使用しない。必要に応じてプリントを配布する。但し、大学で配布される「ユーザーズガイド」は利用する。

【参考文献】

授業中、その都度指示をする。

科 目 名			
経済情報処理演習 I b			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	春学期	2単位	井 田 憲 計

【講義概要・学習目標】

経済情報や経済統計データの入手方法・検索方法について演習を行い、さらにそれらの利活用について演習を行う。

インターネットに点在する経済情報資源・経済統計データの詳解、検索方法とその利用方法に関する解説と演習、経済統計の入手方法と加工方法に関する解説と演習などがテーマとなる。

【講義計画】

1. 新聞社・通信社の経済情報へのアクセス
2. 行政機関の経済情報へのアクセス
3. 統計資料・調査レポートへのアクセス
4. 地域と企業活動に関する経済情報源の検索
5. 経済統計データとは
6. 経済統計データの検索と入手
7. 経済統計データの整理・グラフ化
8. 記述統計手法（平均・分散・相関・回帰）入門
9. 国民経済計算データによる日本経済の分析

【成績評価の方法】

出席、講義時間中の課題提出（不定期）、講義時間外の間レポート（1回程度）、期末課題（最終講義時）を総合して評価を行う。

【教科書】

特に指定しない。講義用のWebサイト（ホームページ）を利用し、必要に応じてプリント等を配布する。

【参考文献】

適宜指示する。

科 目 名			
経済情報処理演習 I b			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
04	春学期	2単位	義 永 忠 一

【講義概要・学習目標】

経済情報や経済統計データの入手方法・検索方法について演習を行い、さらにそれらの利活用について演習を行う。インターネットに点在する経済情報資源・経済統計データの詳解、検索方法とその利用方法に関する解説と演習、経済統計の入手方法と加工方法に関する解説と演習などがテーマとなる。

【講義計画】

1. 新聞社・通信社の経済情報へのアクセス
2. 行政機関の経済情報へのアクセス
3. 統計資料・調査レポートへのアクセス
4. 地域と企業活動に関する経済情報源の検索
5. 経済統計データとは
6. 経済統計データの検索と入手
7. 経済統計データの整理・グラフ化
8. 記述統計手法（平均・分散・相関・回帰）入門
9. 国民経済計算データによる日本経済の分析

【成績評価の方法】

講義中における課題作成を中心に評価します。
講義期間中に、小テストを数回実施します。

【教科書】

プリントを配布します。

【参考文献】

その都度、指示します。

科 目 名			
経済情報処理演習 I b			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
05	春学期	2単位	村 松 郁 夫

【講義概要・学習目標】

経済情報や経済統計データの入手方法・検索方法について演習を行い、さらにそれらの利活用について演習を行う。

インターネットに点在する経済情報資源・経済統計データの詳解、検索方法とその利用方法に関する解説と演習、経済統計の入手方法と加工方法に関する解説と演習などがテーマとなる。

【講義計画】

1. 新聞社・通信社の経済情報へのアクセス
2. 行政機関の経済情報へのアクセス
3. 統計資料・調査レポートへのアクセス
4. 地域と企業活動に関する経済情報源の検索
5. 経済統計データとは
6. 経済統計データの検索と入手
7. 経済統計データの整理・グラフ化
8. 記述統計手法（平均・分散・相関・回帰）入門
9. 国民経済計算データによる日本経済の分析

【成績評価の方法】

実習課題の提出状況、内容により評価します。

か
行

科 目 名			
経済情報処理演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	村 松 郁 夫

【講義概要・学習目標】

経済分析におけるコンピュータ活用法について演習を行う。
 経済や経営に関する統計データは、html形式、csv形式、excelファイルなど、さまざまな形態で配布されている。これらのデータから必要な情報を抽出し、目的にかなったアプリケーションで分析処理するためには、データ処理のためのプログラミング技法と分析手法についての知識が必要となる。本講義では、この2つについての知識を深め、実用的に使いこなせるレベルに到達することを目標とする。

【講義計画】

プログラミングについて

- ・データ形式、ファイルの入出力
- ・変数、配列、計算、関数
- ・反復処理、条件分岐

データ分析について

- ・乱数、確率変数、確率分布
- ・金融計算（複利計算、割引計算など）
- ・記述統計、推測統計の手法
- ・企業財務データを用いた統計分析
- ・株価データを用いた証券分析とシミュレーションなどなど

【成績評価の方法】

授業中の課題提出と演習レポートによる。

【教科書】

使用しない。講義資料を配布する。

【参考文献】

適宜紹介する。

科 目 名			
経済情報処理論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	荒 木 英 一

【講義概要・学習目標】

経済学部生のための情報処理基礎を講義する。
 つまり、コンピュータのハードウェア・ソフトウェアの仕組みを中心に情報処理の基礎知識を解説するとともに、あわせて、経済学におけるコンピュータ利用の現状と可能性について概説する。

【講義計画】

1. コンピュータとは（コンピュータの種類、パーソナルコンピュータの機能）
2. 情報社会とコンピュータ
3. コンピュータによる情報の表現
4. コンピュータによる計算の仕組み
5. コンピュータによる情報処理の仕組みと構成装置
6. パーソナルコンピュータの仕組み
7. ソフトウェアの構成
8. オペレーティングシステム
9. パソコン用ソフトウェア
10. コンピュータ・ネットワーク
11. 学内の情報環境について
12. 経済学の研究・学習とコンピュータ1（インターネット資源の活用）
13. 経済学の研究・学習とコンピュータ2（統計処理）
14. 経済学の研究・学習とコンピュータ3（シミュレーション）
15. プログラミング言語の種類と特徴
16. アルゴリズムと流れ図
17. プログラミングの基礎1（データの型と構造）
18. プログラミングの基礎2（効率的アルゴリズムの選択と設計）
19. プログラミング1（データの整列法）
20. プログラミング2（線形探索と二分探索法）
21. 計測と制御
22. 経済学とコンピュータ

【成績評価の方法】

出席点と期末試験を総合して評価する。

【教科書】

使用しない。プリントを配布する。

科 目 名			
経済数学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	藤 間 真

【講義概要・学習目標】

小中高と学んでくるうちに数学が嫌いになった人は多いでしょう。無味乾燥で現実と無関係だと印象を持っている人も多いと思います。

しかし、ベストセラーとなった『分数のできない大学生』の共著者の一人である西村教授が経済学者であることを例に取るまでもなく、数学は経済学と無縁の学問ではありません。むしろ基本的な見方を提供してくれる道具です。

本講では、指定教科書に沿って、経済学への応用を視野に入れながら、下記の項目について説明した後問題演習を行いません。実際に手を動かして問題に取り組むことが必須の条件となります。

なお、受講生への連絡は大学のメールを用いるので最低限の操作はできるようになってください。

【講義計画】

- ・ グラフの応用
- ・ 関数
- ・ 微分
- ・ 行列とベクトル

進行状況によっては他の事項も扱う。

【成績評価の方法】

学年末試験の成績を中心に、平常成績を考慮して評価します。

【教科書】

入門・経済数学（上）、E. ドウリング著、大住栄治他訳、シーエーピー出版

【参考文献】

入門・経済数学（下）、E. ドウリング著、大住栄治他訳、シーエーピー出版
『大道を行く高校数学 代数・幾何編』 橘 謙他著、現代数学社
『大道を行く高校数学 解析編』 安藤洋美著、現代数学社
『大道を行く高校数学 統計数学編』 安藤洋美著、現代数学社
『経済学のための数学入門』 神谷他著、東京大学出版会

その他は進行状況に応じて指示する。

科 目 名			
経済政策			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	津 田 直 則

【講義概要・学習目標】

講義概要：経済政策は政府の目標と手段の関係について議論する学問分野です。制度やシステムレベルの議論では経済体制論になります。またマクロやミクロの経済理論と関係してくる政策論もあります。最初は経済政策思想や経済体制論を取り上げ、授業の後半では、経済政策の各論や日本経済における具体的な政策問題を扱います。

学習目標：経済政策論の背景には思想や理論があること、また、思想や理論に関する見解の相違がどのように経済政策論に反映するかを理解できるようにします。

【講義計画】

1. 経済政策の目標と手段、対象と課題
2. 21世紀の経済体制
3. サードエコノミーと社会的経済
4. 市場機構と経済政策
5. マクロ経済理論と財政・金融政策
6. 日本の財政構造と金融秩序
7. 90年代日本経済をめぐるケインズ派と新古典派
8. 雇用問題と政策
9. 社会保障と政策
10. 資源・環境問題と政策
11. 地域社会と政策

【成績評価の方法】

小テスト数回と期末テストで行います。

【教科書】

毎回の授業で講義の要約と資料を配布します。

【参考文献】

授業でその都度、案内します。

科 目 名			
経済成長論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	西 川 憲 二

【講義概要・学習目標】

西欧諸国は近代工業を築き上げることによって、ここ数百年たらずで、その他世界を席卷してきた。今日では、各国が世界的な規模で経済競争にさらされるようになった。

この講義では、西欧諸国の経済発展の歴史と戦後日本の経済発展の過程を検討して、経済発展の歴史的教訓を考察する。そして、経済学が経済発展をどのようにとらえているのかを簡単な経済成長理論モデルをもちいて説明する。そのなかで、経済成長の原動力として技術革新の重要性を論じる。

【講義計画】

1. 経済成長とは
2. 近代西欧とアメリカの経済発展
3. 経済成長理論
4. 技術革新
5. 日本の高度成長と現状

【成績評価の方法】

出席、レポート、小テスト、学期末試験

【教科書】

なし。

【参考文献】

- 歴史編 キンドルバーガー「経済大国興亡史（上下）」
岩波書店2002年
- 理論編 スティグリッツ「マクロ経済学」「ミクロ経済学」
東洋経済新報

サムエルソン「経済学（上下）」岩波書店
後藤晃「イノベーションと日本経済」岩波新書2000年

科 目 名			
経済地理学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	野 尻 亘

【講義概要・学習目標】

経済地理学は広範な領域であるが、そのなかで、日本における物流システムの空間的展開について講義をする。生産と消費をつなぐ物流がどのように変化してきたのか。高速道路・国際海上コンテナ輸送・国際航空貨物輸送がどのように展開してきたのかを具体的に説明する。また自動車部品をはじめ、ジャスト・イン・タイムによる物流システムの空間的展開について、紹介する。流通・物流関係に就職をめざす人には業界研究の一助となろう。

【講義計画】

1. 物流と情報化、ロジステイクス
2. 全国的な貨物流動パターン
3. 宅配便の歴史
4. 高速道路における交通流動
5. 産業構造の転換と物流の変化
6. ジャスト・イン・タイムにおける自動車部品物流
7. 国際物流 日本を中心とする国際航空貨物輸送
8. 国際物流 日本を中心とする海上コンテナ貨物輸送 など

【成績評価の方法】

試験によってのみ、成績評価を実施する。

【教科書】

野尻亘『新版 日本の物流』古今書院

【参考文献】

授業中に、適時、紹介する。プリントを配布する。

【備考】

現在、経済地理学全般にわたって広範な入門書を執筆中であるので、このテキストを私が授業で使用するのは、今回を最後としたい。

科 目 名			
経済統計			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	桂 昭 政

【講義概要・学習目標】

経済統計は、新聞紙上等でGDP、失業率、消費者物価指数等の経済指標が報告されるごとく事実認識手段として、また理論あるいは仮説の検証ないし実証手段として今日よく利用されている。本講義では日本経済の全体像を把握するうえで、あるいは日本経済の現状を理解するうえで肝要なSNA統計、とりわけ国民所得統計の特質と利用について、および個別分野の統計である産業統計、家計統計、労働統計、物価統計等の特質ないし利用を中心に講義を進めていく。講義を通じて日本経済の現状の理解を深めるとともに、パソコンによる計算、グラフ作成等の実習を可能な限り行い、日本経済の現状についての理解がより一層深くなるようにしていきたいと考えている。

【講義計画】

1. 国民所得統計の特質と利用
2. 産業統計、家計統計、労働統計、物価統計等の特質と利用

【成績評価の方法】

学期末に行う試験結果を主とし、それにほぼ毎回小テストを行い出席状況を加味して判定する。

【教科書】

岩井浩也（編著）『統計学へのアプローチ—情報化時代の統計利用—』（ミネルヴァ書房）

【参考文献】

- 吉田忠・石原健一編『統計にみる日本経済』（世界思想社）
 木下・土居・森編『統計ガイドブック 社会・経済（第2版）』（大月書店）
 内閣府編『経済要覧』（最新年版）

科 目 名			
経済法			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	牛 丸 與志夫

【講義概要・学習目標】

独占禁止法は、企業活動を規制することにより、公正かつ自由な競争を促進し、一般消費者の利益を確保するとともに、国民経済の民主的で健全な発達を促進することを目的とするものである。講義では、独占禁止法の基本的知識と応用力の取得を目標とするものである。

【講義計画】

独占禁止法の理解には、法律の条文を直接、読み、また、判決および審決における具体的な事例の検討が不可欠である。講義では、①テキスト、②判決・審決判例百選および③六法を常時、携帯すること。以下の順番で講義を行う。

独占禁止法の目的・構成と手続き

- 私的独占の禁止
- カルテルの規制
- 結合・集中の規制
- 不公正な取引方法の規制
- 知的財産権と独占禁止法
- 政府規制と独占禁止法
- 国際取引と独占禁止法

【成績評価の方法】

期末試験で評価する。

【教科書】

- ①岸井大太郎その他4名著『経済法—独占禁止法と競争政策（第4版）』（有斐閣アルマ）（有斐閣発行）
- ②厚谷襄児・種貫俊文編『独禁法審決・判例百選（第6版）』（有斐閣発行）
- ③菅野和夫その他3名編『ポケット六法（平成19年度版）』（有斐閣発行）

科 目 名			
刑事訴訟法			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	安 井 哲 章

【講義概要・学習目標】

本講義では、捜査・公訴・公判の各手続きを規律する原理を検討し、代表的な判例の分析を通して、理論と実務がどのように結びついているのかを考察します。

【講義計画】

テキストの章立てを目安にして、捜査から公判までの重要な論点を順番に解説していきます。

【成績評価の方法】

期末試験

【教科書】

椎橋隆幸編『プライマリー刑事訴訟法』（不磨書房）
井上正仁編『刑事訴訟法判例百選[第8版]』（有斐閣）

【参考文献】

適宜指示します。

科 目 名			
刑法各論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	南 由 介

【講義概要・学習目標】

刑法？と聞くと、面白そう、と思う人も多いかと思いますが、実際は、複雑で緻密で抽象的な（退屈な？）学問です。

刑法各論とは、個別の犯罪を規定している各刑罰法規の解釈を内容とする学問です。各犯罪の構成に関する議論を通じて刑法各論を理解し、法的思考能力、さらには幅広い視野から問題を考察し解決する能力を培うことを目的とします。

刑法各論は、総論に比べ具体的であり、学生にとっても理解し易いかと思います。しかし、細かい論点で難解であることは各論も変わりません。これも、一歩間違えば重大な人権侵害となり得る刑罰の峻厳さからくるのであり、刑罰を科すことが場当たりのになされたら大変なことになってしまうからです。また、刑法各論は、論点が多いため、詰め込みになってしまうかもしれませんが、各犯罪ごとに問題は完結しますので、毎回新鮮な気持ちで受講して頂きたいと思います。

【講義計画】

以下の内容の講義を予定しています。

- ・個人的法益
 - 生命・身体に対する罪（殺人罪、傷害罪、堕胎罪、遺棄罪）
 - 自由に対する罪（逮捕監禁罪、脅迫罪、強要罪、性犯罪、住居侵入罪）
 - 名誉に対する罪（名誉毀損罪）
 - 財産犯（窃盗罪、強盗罪、詐欺罪、恐喝罪、横領罪、背任罪、盗品等関与罪、毀棄隠匿罪）

（時間の余裕がある場合には、社会的法益、国家的法益まで論じることにした）

【成績評価の方法】

試験を行います。また、出席をとります。
3分の1以上欠席した場合は、単位の取得はかなり困難となります。
刑法学は熱心に勉強しないと単位が取れない科目です。試験前にはとにかく勉強してください。
教室内での私語は他の受講生にとって迷惑となるので一切禁止（守れない学生の受講は御遠慮願う）。

【教科書】

井田良『刑法各論・論点講義シリーズ10』（弘文堂、2002年）
井田良ほか『よくわかる刑法』（ミネルヴェ書房、2006年）

【参考文献】

西田典之『刑法各論・第三版』（弘文堂、2005年）
山口厚『刑法各論・補訂版』（有斐閣、2005年）
山口厚『刑法』（有斐閣、2005年）
井田良『基礎から学ぶ刑事法・第3版』（有斐閣、2005年）
芝原＝西田＝山口編『刑法判例百選II各論』（有斐閣、2003年）

科 目 名			
刑法総論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	南 由 介

【講義概要・学習目標】

刑法？と聞くと、面白そう、と思う人も多いかと思いますが、実際は、複雑で緻密で抽象的な（退屈な？）学問です。

刑法総論とは、難しくいうと、犯罪と刑罰の基礎理論であり、すべての犯罪に共通して妥当する理論です。講義内容が抽象的になるかもしれませんが、刑法を考察することによって刑法学を理解することのみならず、法的思考能力、さらには幅広い視野に立ち問題を解決する能力を培うことが可能になると考えています。

刑法学は、話が細かい、面白くない、と指摘されることがあります。しかし、難しいという感想で終わらず、何故、このように複雑で抽象的であるのかを是非考えてください。刑罰を科すということは、人の人生を変えることを意味しますので、それが場当たり的ななされたら大変なことになってしまいます。学説の背後にあるそのようなものにまで思い巡らしながら学習して頂きたいと思っています。

【講義計画】

以下の内容の講義を予定しています。

- ・ 犯罪論の基礎（罪刑法定主義、責任主義、刑法の適用範囲）
- ・ 構成要件論（不作為犯論、因果関係、故意、過失）
- ・ 違法性論（正当防衛、緊急避難、安楽死）
- ・ 責任論（責任能力）
- ・ 未遂犯・不能犯論
- ・ 共犯論

【成績評価の方法】

試験を行います。出席はとりません。

刑法学は熱心に勉強しないと単位が取れない科目です。試験前にはとにかく勉強してください。

教室内での私語は他の受講生にとって迷惑となるので一切禁止（守れない学生の受講は御遠慮願う）。

【教科書】

井田良＝丸山雅夫『ケーススタディ刑法・第2版』（日本評論社、2004年）

井田良ほか『よくわかる刑法』（ミネルヴァ書房、2006年）

【参考文献】

山口厚『刑法総論・補訂版』（有斐閣、2005年）

山口厚『刑法』（有斐閣、2005年）

西田典之『刑法総論』（弘文堂、2006年）

井田良『基礎から学ぶ刑事法・第3版』（有斐閣、2005年）

芝原＝西田＝山口編『刑法判例百選Ⅰ総論』（有斐閣、2003年）

科 目 名			
刑法入門			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	南 由 介

【講義概要・学習目標】

大学に入学した後、初めて接する法律科目が刑法入門をはじめとする入門科目となります。これらの講義においては、予想していた法律学とのギャップや難解な用語、細かい議論への戸惑いで途方に暮れるかもしれません。刑法入門では、これらの問題を最小限にとどめ、秋学期以降の本格的な法律学の学習において挫折しないよう、基礎的知識を身につけ、法律学に慣れることを目的とします。

刑法入門においては、刑事法（刑法・刑事訴訟法・刑事政策）全般の重要な論点について、網羅的に取り上げることとし、刑事法の概観を把握することを目指します。毎回、具体的な事例を交えながら法的問題を考察することによって、具体的な問題から抽象的問題へと展開できるようにします。

【講義計画】

初めの数回において、刑事法とは何か、刑法は何のためにあるのか、また、刑罰とその種類について説明した後、刑法、刑事訴訟法、刑事政策を説明する予定です。

刑法においては、罪刑法定主義、各論、総論（構成要件、違法性、責任）について論じ、刑事訴訟法では、刑事訴訟法とは何かを講義した上で、捜査、裁判について考察します。刑事政策においては、犯罪者の処遇および少年事件の手続きについて検討をします。

【成績評価の方法】

試験を行います。また、出席をとります。

3分の1以上欠席した場合は、単位の取得が非常に困難となります。

【教科書】

井田良『基礎から学ぶ刑事法・第3版』（有斐閣、2005年）

科 目 名			
計量経済学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	荒 木 英 一

【講義概要・学習目標】

経済理論を現実世界の経済データとつきあわせて、理論が主張する命題の正否を検証したり、経済予測に役立てようというのが、計量経済学の目的です。そのために、計量経済学では、統計学の知識を援用しながら、経済モデルを構成し、推計する作業を行います。経済モデルとは、エコノミストの頭のなかにある経済に関する知識を、誰の目にも見えるように、数式のかたちで表現したものといえるでしょう。推計とはモデルを現実のデータとつきあわせてみることです。試行錯誤を繰り返しながら経済モデルを改善して、検証や予測に役立てます。

この講義では、コンピュータを活用しながら、統計データ処理の基本からはじめて、経済学ではもっとも汎用的な実証分析手法である回帰分析を学んでいきます。

【講義計画】

記述統計のいろいろ
最小二乗法、決定係数
統計的推定と検定の考え方
回帰分析

【成績評価の方法】

授業中の小テストと学期末試験による。

【教科書】

使用しない。プリントを配布する。2006年度講義資料は
<http://rio.andrew.ac.jp/araki/gakubu06.html>
を参照のこと。

【参考文献】

適宜に指定する。

科 目 名			
原価計算システム			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	坂 手 恭 介

【講義概要・学習目標】

学習目標としては、日本商工会議所主催の簿記検定試験2級合格の水準に到達し、かつ原価計算の基礎を習得していることとし、以下の概要で講義を行う。

「製品原価」の計算をするための「基礎・入門」に重点を置く。
①まず、日常的な営業、企業活動の切り口との関連で原価計算のイメージが湧くようにガイドする。(1～2回) ②つづいて、ヒト、モノ、サービスの消費が原価として把握されるプロセスを会計的な仕組のなかで理解し表現できるように、問題を解きながら習熟させる。(3～5回) ③この段階で、市場取引の仕組みと製品生産の大まかな理解を得たうえで、製品別原価の計算について基礎力を涵養する。(6～14回)

【講義計画】

テキストに沿って進める計画である。

- 1) 工業簿記の本質 (1週)
- 2) 原価 (1週)
- 3) 原価計算 (2週)
- 4) 工業簿記の構造 (2週)
- 5) 材料費計算 (3週)
- 6) 労務費計算 (4週)
- 7) 経費計算 (4週)
- 8) 製造間接費計算 (5週)
- 9) 部門費計算 (6週)
- 10) 個別原価計算 (7週)
- 11) 総合原価計算 (7週)
- 12) 標準原価計算 (8週)
- 13) 原価・営業量・利益関係の分析 (9週)
- 14) 原価予測の方法 (10週)
- 15) 直接原価計算 (11週)
- 16) 製品の受払い、営業費計算 (12週)
- 17) 工場会計の独立 (13週)
- 18) 総合練習 (14週)

【成績評価の方法】

期末テスト100%

【教科書】

岡本清・広本敏郎編著『新検定簿記講義(2級)工業簿記』中央経済社、平成18年版。

岡本清・広本敏郎編著『新検定簿記ワークブック(2級)工業簿記』中央経済社、平成18年版。

科 目 名			
健康・スポーツ学講義－健康科学概論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	高 橋 ひとみ

【講義概要・学習目標】

健康の捉え方は時代により、国・地域により異なる。そこで、まず健康の意識について学習する。さらに、現代社会は国際社会であり、個人の健康は社会の健康の上に成立していることから、広くヘルス・プロモーションやセーフティ・プロモーションの考え方について学習していく。その後、人間の成長との関連から、健康の維持増進のための運動と栄養と休養についてみていく。
理論にとどまらず、自分の健康・家族の健康・地域社会の健康のために実践する態度を養ってほしい。

【講義計画】

まず、教科書を中心に健康に関する基礎的なことを学習する。その後、自己の健康状態を把握するため、健康に関する調査や簡易体力テストなどを実施し、健康な大学生活を送るための生活指針（運動・栄養・休養の面から）を作成する。

【成績評価の方法】

平常点（遅刻・早退や講義中の態度など）、レポート、期末テスト

【教科書】

緒方正名監修、高橋ひとみ他著「最新健康科学概論」、朝倉書店

科 目 名			
健康・スポーツ学講義－スポーツ科学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	今 西 俊 次

【講義概要・学習目標】

スポーツ科学は、人間そのものをあつかう総合科学です。近年この分野の発展には著しいものがあります。その成果には、たんに「強く・高く・速く」という、一握りのトップアスリートだけのものではありません。健常者にとってはもちろんのこと、障害者や中・高年者にとっても有効なものです。本講義では、スポーツが生体に与える影響と体力がスポーツの成果に与える影響を考察し、合理的なトレーニングの方法について学びます。また、ワールドカップ、オリンピック、MLB等に関する話題を取り上げ、スポーツの今日的課題についても考えます。

【講義計画】

[授業内容]

1. 運動・スポーツの意義
2. 運動と骨格筋・神経系
3. 運動と呼吸循環系
4. 運動と発育・発達
5. 運動と環境
6. 運動と身体組成
7. 運動と疲労
8. 運動と栄養
9. ドーピング
10. トレーニングの基礎理論
11. トレーニングの種類と方法

【成績評価の方法】

授業時のコメント、レポート、テストなどにより総合的に評価します。

【教科書】

テキストは、特に指定しません。毎回プリントを配布します。

【参考文献】

参考図書は、授業時に連絡します。

科 目 名			
健康・スポーツ学講義—スポーツの歴史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	高 橋 ひとみ

【講義概要・学習目標】

戦後の経済復興を経て高度工業化社会を達成した国では、スポーツの大衆化現象が起り、スポーツ人口が激増した。今日、私たちが、「観るスポーツ」「するスポーツ」を楽しんでいる。そのスポーツがどのようにして成立し・発展してきたかについて学習する。

体育・スポーツの歴史を知ることは、その意義を理解し、今後の方向を教えてくれる資料となる。

【講義計画】

- I 先史 先史時代の体育・スポーツ
- II 古代 古代オリエントの体育
ギリシャ・ローマの体育
- III 中世 中世キリスト教とスポーツ
騎士の教育とスポーツ
中世ヨーロッパスポーツ
- IV 近代 近代ヨーロッパ形成期の体育
ヨーロッパ近代体育の成立
近代諸国における学校体育の成立と発展
近代スポーツおよびレクリエーション運動の展開
- V 第2次世界大戦後の世界の体育・スポーツ

【成績評価の方法】

試験・レポート・平常点

【教科書】

高橋ひとみ編著、「体育・スポーツ史」,西日本法規出版

科 目 名			
健康・スポーツ学講義—体育・スポーツ論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	高 松 成 直 也 ヨ シン ハ

【講義概要・学習目標】

本講義では、現代社会における体育・スポーツに関する様々な諸問題を取り上げて講義を展開する。学習目標は体育・スポーツの諸問題を素材にし「スポーツとは何か」について深く考察する能力の向上を目指す。また、健康的な生活習慣の確立と日常生活の中にスポーツを取り入れることをねらいとする。

スポーツビデオと新聞資料を多用する。

【講義計画】

- ①オリエンテーション
- ②体育とスポーツの違い
- ③現代社会の特徴とスポーツ
- ④プロスポーツ
- ⑤企業スポーツ
- ⑥日本のスポーツ政策
- ⑦諸外国のスポーツ事情
- ⑧日本のスポーツ観
- ⑨スポーツコーチングとは
- ⑩コーチングの現状と問題
- ⑪科学的アプローチによるコーチング
- ⑫トレーニング計画と構成
- ⑬スポーツのメンタルトレーニング
- ⑭モチベーションのコントロール

【成績評価の方法】

出席、毎回の感想・要約、テスト等を総合的に評価します。

【教科書】

資料を配布する。

【参考文献】

講義でその都度、指示する。

「健康・スポーツ学演習」クラス一覧

クラス	担当者	クラス	担当者	クラス	担当者
01	吉井 泉	26	高 成廈	58	眞来 省二
02	松本 直也	27	松本 直也	61	見正 秀基
03	辻井 義弘	31	末野 幹敏	62	見正 秀基
04	辻井 義弘	32	松本 直也	63	志水 正俊
05	辻井 義弘	33	前山 直	64	志水 正俊
06	眞来 省二	34	松浦 義昌	66	濱口 雅行
11	藤木 泰治	35	末野 幹敏	67	高 成廈
12	吉井 泉	36	末野 幹敏	68	今西 俊次
13	見正 秀基	37	今西 俊次	71	前山 直
14	藤木 泰治	41	藤木 泰治	72	前山 直
15	濱口 雅行	42	藤木 泰治	76	児玉 公正
16	松浦 義昌	43	高 成廈	77	児玉 公正
17	高 成廈	46	今西 俊次	81	今西 俊次
18	高橋 ひとみ	47	前山 直	82	前山 直
19	志水 正俊	51	末野 幹敏	83	高 成廈
20	眞来 省二	52	末野 幹敏	84	高橋 ひとみ
21	藤木 泰治	53	松本 直也	85	高橋 ひとみ
22	藤木 泰治	54	松浦 義昌	86	児玉 公正
23	野田 浩之	55	濱口 雅行	91	今西 俊次
24	松本 直也	56	前山 直		
25	野田 浩之	57	末野 幹敏		

か
行

科 目 名			
言語学概論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	清 水 真 一

【講義概要・学習目標】

本講では言語学を科学として位置付ける。言語を自然科学的な意味での体系的な一つの仕組みとして捉え、広義の意味でわれわれが（自然言語の）文法と呼んでいるものをどう捉え直すのかを各受講生に問う講義となろう。本講での考察の対象は、音、レキシコン、文の構造、意味に及ぶ。それぞれの分野における基本概念を学び、データ分析に対する態度を養うことに多くの時間を費やす。従って、定期的に小テストを実施する。また、科学的な明示性を期するため数理的な概念も導入される。なお、意味を語るについては論理的な概念と手法が導入される。データは英語を中心とし、英語文献の講読・要約が要求されることもある。なお、小テストが定期的に実施されるため当然出席が重視されることになる。

【講義計画】

1. 音声のしくみ
2. レキシコン
3. 文の仕組み
4. 意味と論理

【成績評価の方法】

出席、小テスト、試験に基づいて総合的に評価をおこなう。

【教科書】

井上和子・原田かづ子・阿部泰明共著『生成言語学入門』（大修館書店）

【参考文献】

授業中に随時、指示する。

【備考】

<02～07生>

共通自由科目として、LE・LI対象外

LE・LI生は学科選択科目

科 目 名			
言語学－人間言語の音声体系			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	Kevin R. Gregg <small>ケビン グレグ</small>

【講義概要・学習目標】

言語学は、人文学というよりも自然科学、より具体的に言えば心理学の一分野である。言語学は、様々な下位分野を含み様々な現象を説明しようとするが、本授業では、それぞれを全部、少しずつ触れるよりも、むしろ1つの下位分野のみに専念し、より深く理解してもらいたい。本授業のトピックは、人間言語の音韻体系である。つまり、ヒトはどうやって母語を話す（発音する）のか、発音するためにどのような規則に従うのかを研究する音韻論という分野を紹介する。日本語や英語、その他世界の言語の例をいくつか見ながら、ヒトの言語知識（の一部）をどう分析すればよいのかを考え、併せて科学としての言語学における仮説形成や仮説検証の方法も理解していただきたい。

【講義計画】

先ず、音韻規則を理解する必要の背景知識として、音声学の基礎を紹介する：

- ・発音のしかた：音声器官、音の分類
- ・音声記号、表記
- ・音の変異

そしてその基礎知識に基づいて、音の心的な面：

- ・音の心的表示：音素
- ・音韻規則：心的表示と実際の発音のズレを説明する

【成績評価の方法】

小テストを頻繁に行なう。学期末試験もあるが、それは成績の3割ぐらいに過ぎない。

【教科書】

教科書はないが、その代わりにプリントをたくさん（うんざりさせる程かもしれない）配る。

科 目 名			
現代技術論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	辻 洋一郎

【講義概要・学習目標】

最近では製造業だけでなく、流通、サービス、物流や金融の現場でも「技術」を知らないと仕事になりません。しかし、小難しい教式や理屈は理系＝工学部出身者に任せておけばよいのです。具体的な中身ではなく、技術の『考え方』さえ知っておけば、将来、営業や経理・企画で活躍する皆さん方が、技術者に翻弄されることなく、彼らをコントロールできるのです。

この講義では、身近な新製品や新技術を例にあげて『技術の構図』、『技術的なものの見方』や『技術的な考え方』をマーケティングとからめて理解することに力点を置きます。考え方をさえ習得すれば、文科系でも理科系に負けない企画やビジネスチャンスものにもすることも可能です。この講義では、現代技術に対する恐怖心をなくし、技術に親しむことを第一にしています。

【講義計画】

- (1) 経済を支える技術革新
 - (2) 技術の歴史と進化
 - (3) 技術と製品・マーケティング
 - (4) ヒット商品にみる技術
 - (5) さまざまな技術／技能の具体例
 - (6) 技術の進歩／技能の進化
 - (7) 技術の限界と社会
 - (8) 技術を取り巻く要因
- (順序及び回数は不同)

【成績評価の方法】

学期末試験の成績、レポート、講義への積極的参加態度などを総合して評価します。基本的に出席はとりません。

【教科書】

特に指定しません。

【参考文献】

講義中に都度推奨、指示します。

科 目 名			
現代思想			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	岩 津 洋 二

【講義概要・学習目標】

私たちは人生の途上でさまざまな恐怖に遭遇する。爆弾テロを怖がり、地震を怖がり、お化けを怖がり、友達から嫌われるのを怖がる。じつに多くの恐怖が私たちの生活につきまとい、恐怖ゆえに、私たちはしたいことを思いとどまり、したくないことをあえておこなっている。しかし、私たちの行動の決定にかくも深くかかわっている恐怖がどのようなものであるかについて正しく認識している人は多くない。

この講義は、哲学のみならず心理学・生理学・民族学・民俗学などの多様な視点から恐怖を解剖し、その作業をとおして、恐怖にとらわれている自分を見つめなおし、恐怖から自分を解放し、より自由になるための手がかりをさぐるという実践的な課題を追求する。恐怖というキーワードをとおして、世界と自分自身を再発見する試みといってもよい。

【講義計画】

- I 恐怖とは何か
 - II 恐怖と文化
 - III 恐怖と秩序
 - IV 恐怖への接近
 - V 恐怖からの解放
- (第1回目の講義で、より詳細な講義計画を示す)

【成績評価の方法】

講義への参加度・提出物・テストによる総合的評価

【参考文献】

授業中に適宜指示する。

科 目 名			
現代社会論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	原 田 達

【講義概要・学習目標】

現代日本社会の在りようを考えたい。その際、ふたつの切り口から現代日本社会に迫りたい。それは「祝祭」と「競争」である。

「祝祭」と「競争」は、表面上は無関係にみえる。一方は情念の沸騰する社会的場であり、他方は理知で切り抜けてゆく社会空間である。しかし、社会は情念と理知が複雑に絡み合いながら構成されている。その複雑な絡み合いのひとつの側面を考えたい。

【講義計画】

「祝祭」については「よさこい祭り」と「ジャズストリート」を取り上げる。その成立、展開、そして社会的意義について。それは、合理的に編成された現代社会のその「合理」の裏をかく社会現象である。

「競争」については、きみたちが経験した受験競争、きみたちが経験している就職競争、きみたちが経験するであろう昇進競争を素材にして、現代日本社会をつらぬく競争のメカニズムについて解説する。それは、合理的に編成された現代社会のその「合理」が冷酷に顔をだす社会空間である。

【成績評価の方法】

試験、もしくはレポートを課します。

【教科書】

使用しません。

【参考文献】

その都度、指示します。

【備考】

<02～07生>

共通自由科目として、SS生対象外

SS生は学科教育科目

科 目 名			
現代中国社会			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	松 崎 征 弘

【講義概要・学習目標】

1) 中国駐在経験があり長年来、中国ビジネスの第一線で仕事をしている立場から豊富な経験、知見に基づき徹底的に実務的、実際の講義を行うことを前提とし、中国ビジネスコース選択者という目的意識の高い受講者に対して将来設計への即戦力となりうる講義を行う。

とりわけ1949年に新中国が成立したが、その後の約30年間は国内的混乱（貧困状態下での政治、思想、経済路線闘争及び鎮国状態）が続いた。

しかし、当時の優秀な指導者と正しい政策的判断の結果、この国家的困難を克服しつつ対外開放・改革路線を展開したことが、国際社会において大きな存在となっている今日の中国につながっている。

従って、歴史的基準点を1949年とし、1979年末までの中国国内社会、政治面での変遷と経済復興に向けた姿及び中国を取り巻く当時の国際情勢について、80年代以降の経済発展の実情を把握した後、2001年12月にWTO加盟を果たしたことをきっかけとして、21世紀最大の経済大国になるであろう今の中国の諸相に迫る。

2) あらゆる面でグローバル化が進み、相互干渉、相互補完が絡み合っている現在の国際的環境下において、中国の実態に迫る場合、ただ単に中国大陸で展開されている政治的、民族的、文化的、経済的分野での活動を学習するだけでなく、中国が多面的に国際的に相互補完関係を構築しつつあり、中国の特徴の一つである海外華僑の存在にも触れ、中華圏として捉え、歴史上の中国ではなく躍進、躍動中の中国についての知識取得と見方を学習する。

【講義計画】

15回の講義を大きく3段階に分けてすすめる。

- 1) 政治、社会システム及び、その中に存在する独特な問題点について中国共産党による一党独裁の政治体制及び、社会主義制下での計画経済という特徴を持っている点から、その合理性或いは不合理性そして貧困、汚職など社会構造に起因する多数の独特な問題について講義する。
- 2) 多民族国家であり巨大な人口及びその中の巨大な農村人口を抱える、という現状及び将来的課題を講義
13億余の人口の92%が漢民族であり残り8%が55種類の少数民族から構成されている複雑性に起因する経済、社会面での問題について、そして今世紀半ばには16億に達すると予測される人口問題について世界の人口動向と関連付けながら理解する。とりわけ農業国家であるにもかかわらず農村・農民・農業への政治的、経済的関与が少なく、社会不安の一因である点にも触れながら近代化への脱皮を目指している実態を講義する。
- 3) 世界の工場、市場として急成長しつつある姿を捉える海外の国・地域から約55万社の外資導入を実現し、とりわけ我国経済は中国に大きく依存せざるを得ない、という実情を歴史的、国際経済関係の側面から考察すると共に家電、自動車など代表的産業事例を例示しつつ中国経済の強さに迫る。同時に、一般に中国ビジネスといえば海外からの対中進出と誤解されているが、走出去に代表される中国企業の我国やその他の外国企業へのM&Aが進展中である上に巨大になった中国の経済力を背景に、海外企業の買収だけでなく世界資源を爆食しているという事象にも及んで講義する。

【成績評価の方法】

最終講義でペーパーテストを行う

【教科書】

- 1) 「中国経済データハンドブック2006」財団法人日中経済協会
- 2) 「現代中国ビジネス論」世界思想社

【参考文献】

- 1) 「現代中国経済の分析」世界思想社
- 2) 「現代中国の民族と経済」同上
- 3) 「中国年鑑」 創土社
- 4) 「2020年の中国」日本経済新聞社

【備考】

- 1) 毎回、適宜、コピー資料を配布
- 2) 中国人留学生には英語と日本語のマスターを、日本人学生には中国語と英語のマスターを望むものである
- 3) 当然であるが邦字紙を毎日、読むこと

科 目 名

現代中国政治

クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	副 島 昭 一

【講義概要・学習目標】

この授業では20～21世紀の中国の政治と社会の変容と現在の問題を取りあげる。現在の政権政党である中国共産党の成立から、現在までを通観して見ることにより、現代中国の抱える諸問題や社会主義的市場経済の世界史的な意味について考える。

【講義計画】

抗日戦争における民族的統一と近代国民国家形成への動き、
中国共産党の指導の確立と中華人民共和国の成立、
新民主主義から社会主義へ
「大躍進」と人民公社
調整期から文化大革命へ
改革開放政策への転換、市場経済と社会主義
以上のような現代中国の歩みを概観して、現代中国の直面する課題を考えたい。

【成績評価の方法】

出席状況、授業中の発言、レポート、テストなどで総合的に評価する。

【教科書】

池田・安井・副島・西村編『図説中国近現代史』（法律文化社、2,700円＋税）

科 目 名			
憲法			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期集中	4単位	森 口 佳 樹

【講義概要・学習目標】

日本国憲法全般の基本的論点について講義する。理解を助けるために判例の紹介に重点をおくこととする。憲法は、大きく分けると、人権規定と統治機構の部分に分けられるが、多少前者に重点をおいて講義を行う。

【講義計画】

以下の順序で講義を行う予定である。原則的に1項目1回の講義とするが、内容の多寡により数回講義を行う場合がある。たとえば、表現の自由は1回の講義では終えられない予定である。

- 1 憲法の内容
- 2 基本権の歴史
- 3 基本権の享有主体
- 4 公共の福祉論
- 5 特別権力関係
- 6 幸福追求権
- 7 平等権
- 8 精神的自由権（表現の自由以外）
- 9 表現の自由
- 10 経済的自由権
- 11 人身の自由
- 12 参政権
- 13 生存権
- 14 生存権以外の社会権
- 15 国務請求権と国民の義務
- 16 天皇と平和主義
- 17 国会
- 18 内閣
- 19 司法権と裁判所
- 20 違憲立法審査権
- 21 財政と予算
- 22 地方自治

【成績評価の方法】

期末試験の成績を主として、出席調査や小テストの成績を従として評価する。受講者数の多寡により変更することがあるので、詳細は受講者数が確定した後、説明する。

【教科書】

土居・網中編著「現代憲法概論」（2006年・嵯峨野書院）

【参考文献】

別冊ジュリスト「憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ（第5版）」（2007年・有斐閣）

芦部信喜著「憲法（第3版）」（有斐閣）

【備考】

六法を必携すること。

科 目 名			
憲法			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期集中	4単位	松 田 聰 子

【講義概要・学習目標】

憲法の基礎を身近な例から習得することを目標にする。憲法が「最高法規」であり「人権の法」であるとの理解を深めていくことになるが、日本国憲法のほか諸外国の憲法も素材にしていく。講義は統治機構論と人権論とに大別してすすめていく。国家試験の問題なども適宜利用する。

【講義計画】

1. 近代憲法から現代憲法へ
2. 日本国憲法の成立と特質
3. 国民主権と選挙制度
4. 国民主権と国民投票制度
5. 国民主権と天皇制
6. 国会の地位と権能
7. 議院内閣制
8. 司法制度の原則
9. 司法制度のこれから
10. 人権思想の系譜
11. 新しい人権
12. 人権の享有主体
13. 思想・良心の自由
14. 死刑制度
15. 平等原則
16. 自己決定権
17. 信教の自由
18. 表現の自由
19. 社会権
20. 平和主義
21. 戦後改憲論の系譜

【成績評価の方法】

講義時の提出課題（ただし受講生の数による）、学期末試験で判断

【教科書】

参考文献のほか、とくに用いない

【参考文献】

芦部信喜『憲法（第三版）』（岩波書店）、
佐藤幸治『憲法（第三版）』（青林書院）、
渋谷秀樹他『憲法1・2（第二版）』（有斐閣）、
辻村みよ子『憲法（第2版）』（日本評論社）、
粕谷友介ほか『憲法（新版）』（青林書院）

科 目 名			
憲法Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	森 口 佳 樹

【講義概要・学習目標】

憲法の大きな2つの部分、すなわち統治機構に関する部分と人権規定に関する部分のうち、後者の主要論点について講義する。

【講義計画】

以下の順序で講義を行う予定である。ただしあくまで、順序を示すにとどまり、1回の講義で1項目を必ず終えるという意味ではない。

- 1 人権の概念・体系
- 2 人権の主体（外国人）
- 3 人権の主体（法人等）
- 4 人権の制約
- 5 人権の適用範囲
- 6 幸福追求権
- 7 平等権
- 8 表現の自由以外の精神的自由権
- 9 表現の自由
- 10 表現の自由制約の特殊法理
- 11 経済的自由権
- 12 生存権
- 13 教育・労働に関する権利
- 14 国務請求権
- 15 裁判に関する権利
- 16 参政権

【成績評価の方法】

期末試験の成績を主として、出席調査や小テストの成績を従として評価する。

受講者数の多寡により変更することがあるので、詳細は受講者数が確定した後、説明する。

【教科書】

君塚正臣編著「ベーシックテキスト憲法」（2007年・法律文化社）

【参考文献】

別冊ジュリスト「憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ（第5版）」（2007年・有斐閣）

芦部信喜著「憲法（第3版）」（有斐閣）

【備考】

六法を必携すること。

科 目 名			
憲法Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	松 田 聰 子

【講義概要・学習目標】

憲法Ⅱでは、いわゆる統治機構に関する事項を学ぶ。憲法は人権保障の法であり、そのための統治構造を定めた法であることは、憲法Ⅰですでに学んでいる。憲法Ⅱでは、日本国憲法における国民主権、権力分立、地方自治、財政、平和主義に関する原理と解釈の習得を目標とする。できるだけ具体的な事件や判例を通して体系的な理解を深めていく。また、わが国の憲法解釈に不可欠な比較憲法からのアプローチも試みる。なお、国家試験の問題などにも適宜ふれていく予定である。

【講義計画】

1. 憲法と立憲主義
2. 法の支配と法治主義
3. 国民主権と人民主権
4. 国民主権と選挙制度
5. 国民主権と国民投票制度
6. 国民主権と天皇制
7. 国会の地位と権能
8. 二院制
9. 国会議員の特権
10. 議院内閣制
11. 衆議院の解散
12. 司法権の意味と範囲
13. 司法権の限界
14. 違憲立法審査制の性格
15. 違憲立法審査制の限界
16. 司法制度の課題
17. 裁判員制度
18. 地方自治制度
19. 財政制度
20. 憲法保障
21. 平和主義
22. 戦後改憲論の系譜

【成績評価の方法】

学期末に行う論述試験で判断

【教科書】

芦部信喜『憲法 第三版』岩波書店

【参考文献】

佐藤幸治『憲法（第三版）』（青林書院）、渋谷秀樹他『憲法2（第二版）』（有斐閣）、辻村みよ子『憲法（第2版）』（日本評論社）、粕谷友介ほか『憲法（新版）』（青林書院）

科 目 名			
憲法入門			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	松 田 聰 子

【講義概要・学習目標】

憲法入門は、憲法学の学習を容易するため、「具体から抽象へ」「素材（基本事例）の習得から理論的整理へ」を基本に、その前段階の憲法学習の基本となる素材（基本事例）の習得に力点が置かれる。それにより、以後の解釈学を中心とした学習での抽象的な概念整理に必要な素材（基本事例）を提供する。具体的には、憲法学での興味深い判例や基本概念の理解に不可欠な具体的事例の紹介と解説を中心とする。「生きた法」の現実を具体的に学習し、法学の学問としての面白さを学び、法学学習への意欲を高めることが企図されている。

初年度における法学学習の体系的理解を促すため、毎回出席をとる。

【講義計画】

- 1 ガイダンス
- 2 「三菱樹脂事件」「エホバの証人輸血拒否事件」
- 3 「尊属殺重罰規定違憲判決」「非嫡出子の法定相続差別事件」
- 4 「麹町中学内申書事件」「津地鎮祭訴訟」「愛媛玉串料訴訟」
- 5 「チャタレイ事件」「北方ジャーナル事件」「徳島市公安条例事件」
- 6 「小売市場事件」「薬事法違憲判決」「森林法共有林事件」
- 7 「朝日訴訟」「堀木訴訟」「旭川学テ事件」
- 8 「全通中郵事件」「東京都教祖事件」「全農林警職法事件」
- 9 「砂川事件」「恵庭事件」「長沼事件」
- 10 「警察予備隊違憲訴訟」「板まんだら事件」
- 11 「砂川事件」「苦米地事件」「警察法改正無効事件」

【成績評価の方法】

2/3以上の出席を単位認定の基本条件とする。
定期試験と時々的小テストの結果を総合して成績評価の判断をおこなう。

【教科書】

別冊ジュリスト『憲法判例百選Ⅰ〔第4版〕』有斐閣
別冊ジュリスト『憲法判例百選Ⅱ〔第4版〕』有斐閣

【参考文献】

芦部信喜『憲法判例を読む』岩波書店
樋口陽一・山内敏弘・辻村みよ子『憲法判例を読みなおす』日本評論社
棟居・赤坂・松井・笹川・常本・市川『基本的人権の事件簿』有斐閣

科 目 名			
語彙・意味論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	藤 原 健

【講義概要・学習目標】

ことばによる表現が単語を一定の文法規則に従って文の形にまとめ上げることであるとすれば、表現にはいくつかの単語が使われていると考えるのが普通であろう。私たちが使っている日本語も、数多くの単語を意味伝達の手段として、それを文や文章、談話の形にまとめ上げているのである。「語彙」とは、このような文章や談話を形成するための要素として用いられる単語の集まりのことであり、言語にとって文法と同等に重要な要素である。

この講義では、日常的な平易な用例をもとに、日本語の語彙の意味や構成を分類し、普段使っている日本語の語彙について、いろいろな面から考えてみたい。

【講義計画】

1. 単語と語彙
 - 1) 単語とは
 - 2) 語彙とは
 - 3) 語形
2. 語の教
 - 1) 基礎語彙と基本語彙
 - 2) 使用語彙と理解語彙
 - 3) 語数とカバー率
3. 語の種類
4. 語構成と造語法
 - 1) 語の構成成分
 - 2) 造語法
 - 3) 造語に伴う音声変化
5. 語の意味
6. 意味に関する問題点
7. 語彙教育のポイント

【成績評価の方法】

定期試験（半期科目であるので、春学期1回）により評価する。
詳しくは、授業初回に説明する。

【教科書】

森田良行・村木新次郎・相沢正夫（編）『ケーススタディ・日本語の語彙』（おうふう）

【参考文献】

浅野百合子（著）『教師用日本語教育ハンドブック（5）語彙』（国際交流基金／凡人社）

科 目 名			
公共経済論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	竹 歳 一 紀

【講義概要・学習目標】

公共経済学の基礎について講義する。公共経済学の扱う範囲は広いが、一口で言えば、市場経済において公共部門の介入が必要となる諸問題を経済理論により分析することである。すなわち、公共部門（政府）の介入が必要となるのはどのような問題に対してか、また、適切な介入（政策）とはどのようなものか、といった点について明らかにすることが重要な課題となる。

この講義では、（１）公共財と公共投資、（２）外部性と環境問題、（３）所得分配と社会保障、といったテーマをとりあげる予定である。

公共経済学を理解するためには、主としてミクロ経済学の知識が必要となる。講義でも適宜説明を加えるが、経済原論IA-1を履修済みか、同時に履修していることが望ましい。

ただし、講義では理論だけでなく上記のテーマに関する実態・政策面についての解説も行う。

【講義計画】

1. 公共経済学の対象
2. 厚生経済学の基礎
3. 公共財と公共投資
4. 外部性と環境問題
5. 所得分配と社会保障

【成績評価の方法】

中間試験および学期末試験の成績による。

詳細は初回に説明する。

【教科書】

特に指定しない。

【参考文献】

講義中に指示する。

科 目 名			
工業簿記			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	河 野 勉

【講義概要・学習目標】

本講義では、初級の商業簿記の履修を終えた学生を対象に、製造業の簿記（初歩の原価計算を含む）を講義する。

簿記の学習には、計算方法や簿記的な考え方に慣れることが必要のため、毎時間、練習を解く学習を中心につとめて実践的に授業を進めたい。

原価計算論学習のための基礎知識や公認会計士等の資格試験受験の出発点として必要な簿記能力の習得に役立つと思うので、受け身にならず積極的に授業に参加してもらいたい。

【講義計画】

1. 工業簿記の構造
2. 材料・労務費・経費の計算
3. 製造間接費計算
4. 部門費計算
5. 個別原価計算
6. 総合原価計算
7. 標準原価計算
8. 直接原価計算
9. 工場会計の独立

【成績評価の方法】

定期考査の成績に出席状況、提出物等を加味して、総合的に評価する。

【教科書】

小林哲夫・伊藤 博（共著）「最新工業簿記増補改訂版」（実教出版）岡本 清・廣本敏朗（編著）「新検定簿記ワークブック 2級工業簿記」（中央経済社）

【参考文献】

岡本 清・廣本敏朗（編著）「新検定簿記講義 2級工業簿記」（中央経済社）

か
行

科 目 名			
公的扶助論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	瀧澤 仁 唱

【講義概要・学習目標】

- 1 現代社会における公的扶助の理念と意義について理解させる。
- 2 生活保護制度のしくみと近年の動向について理解させる。
- 3 生活保護及び関連分野の組織・専門職及びその連帯のあり方について理解させる。

【講義計画】

- 1 現代社会と公的扶助
 - 1) 公的扶助理念の発達
 - 2) 概念と範囲
 - 3) 役割と意義
- 2 低所得対策の概要
- 3 生活保護制度のしくみ
 - 1) 目的
 - 2) 基本原理
 - 3) 保護の原則
 - 4) 保護の種類と内容
 - 5) 保護の機関と実施体制及び財源
 - 6) 保護施設の種類
 - 7) 被保護者の権利及び義務
- 4 生活保護の最近の動向
- 5 生活保護及び関連分野の組織・専門職及びその連帯のあり方
 - 1) 組織・専門職
 - 2) 連帯のあり方

【成績評価の方法】

論述式筆記試験（評価方法は授業開始時に説明します）

【教科書】

法改正や制度改正が多く、適当な教科書が間にあわないので、別途指示します。

【参考文献】

より詳しく調べたい方は、社会福祉小六法（2007年版）又は『社会福祉六法 2007（平成19）年版』（新日本法規）
 必要に応じ一部条文はコピーしてわたしますので、特別に専門的な学習のために必要な方以外は購入する必要はありません。

【備考】

<02～06生>
 共通自由科目として、SW生対象外
 SW生は学科教育科目

科 目 名			
コース演習 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	通期	4単位	竹 歳 一 紀

【講義概要・学習目標】

中国ビジネスキャリアコース1年生のための基礎ゼミナールである。
 目標は主に以下の2つ。

1. 大学での学習に必要なスキル（特に、読む・書く・伝える）を身につける。
2. 中国という国への関心と理解を深める。

【講義計画】

1. 読む・書く・伝えるという作業を個人およびグループで行う。
2. 中国の社会や経済に関して映像資料などにより学ぶ。

具体的な授業計画については、初回に説明する。

【成績評価の方法】

出席を基本とし、課題への取り組みなどを加味して総合的に評価する。

【参考文献】

適宜指示する。